

平成 30 年度 事業報告・決算について

社会福祉法人コミュニティーネットワークふくい

平成 30 年度事業報告

社会福祉法人コミュニティーネットワークふくい

平成 30 年度は、より良い福祉サービスの提供や慢性化する人手不足解消のため、処遇・職場環境の改善および、その財源確保や想定される設備の修繕への備えに取り組んだ。また、A 型事業の根本的な見直しを行い、事業の廃止・統合および新規事業の獲得の検討を実施した。

1 事業計画執行状況表

・事業の見直し

あわら事業所にしやま寮（グループホーム）	事業廃止日	平成 30 年 5 月 31 日
丸岡南中事業所介護型（生活介護事業）	事業廃止日	平成 31 年 3 月 31 日
福井事業所今立作業所（生活介護事業）	事業廃止日	平成 31 年 3 月 31 日
福井事業所かえで寮（グループホーム）	事業廃止日	平成 31 年 3 月 31 日

・監事の事業所巡回

課題の把握、改善を図ることから実施した。

巡回日 5 月 14 日、15 日、16 日、18 日（4 日間）茂田井監事、武田監事

・理事長の事業所巡回

巡回日 7 月 18 日、7 月 23 日、7 月 30 日、8 月 2 日（4 日間）

・室長、所長会議の実施（13 回開催）

法人内・事業所内の課題を抽出し、意識を統一することで改善を図った。

・人財定着および確保に向けた職場環境の整備

学校訪問を実施した。

3 ヶ月に 1 回有給の取得状況の確認を実施した。

・利用定員充足率 100%への取組み

学校まわりや相談支援事業所との連携を図った。

・設備の修繕への取組み

事業所巡回を実施した。

修繕計画を策定した。

・全事業所が連携できる体制作り

栄養士（食品部門担当）連絡会、サビ管連絡会、支援力向上委員会を開催した。

・施設整備及び処遇改善のための財源確保

四半期毎の予算進捗管理を実施した。

経理規程（細則）を策定した。

2 理事会

① 平成 30 年度 第 1 回理事会 平成 30 年 4 月 24 日(火) 13:00~13:47 (本部 会議室)

(1) グループホームにしやま寮の廃止について

② 平成 30 年度 第 2 回理事会 平成 30 年 5 月 28 日(月) 10:00~11:37 (本部 会議室)

(1) 平成 29 年度 事業報告・決算について

(2) 社会福祉充実残額について

(3) 役員、評議員及び評議員選任・解任委員の報酬に関する規程の変更について

(4) 法令遵守規程の制定について

(5) 定時評議員会の招集について

報告事項 ・平成 29 年度 監事監査について

③ 平成 30 年度 第 3 回理事会 平成 30 年 8 月 2 日(木) 10:00~11:13 (本部 会議室)

(1) 平成 30 年度 第 1 四半期累計期間 事業報告について

(2) 経理規程細則の制定について

(3) 法令遵守規程の変更について

報告事項 ・積立金の更新について

・平成 29 年度 監事監査指導事項についての対応状況について

④ 平成 30 年度 第 4 回理事会 平成 30 年 11 月 29 日(木) 10:00~11:35 (本部 会議室)

(1) 平成 30 年度 第 2 四半期執行状況および事業報告について

(2) 就業規則の改定について

(3) 経理規程の改定について

報告事項 ・B 型事業の開設について

・福井県実地指導による是正指導（返還）について

・懲戒処分について

・表彰について

⑤ 平成 30 年度 第 5 回理事会 平成 31 年 2 月 15 日(金) 13:30~15:10 (本部 会議室)

(1) 平成 30 年度 第 3 四半期執行状況および事業報告について

(2) B 型事業の開設について

(3) 「丸岡南中事業所生活介護型の廃止」および「あわら事業所生活介護型の拡充」について

(4) グループホームかえで寮の廃止について

(5) 今立作業所の廃止について

報告事項 ・福井市の中核都市移行による指定・指導権限の移譲について

⑥ 平成 30 年度 第 6 回理事会 平成 31 年 3 月 15 日(金) 10:00~11:05 (本部 会議室)

(1) 平成 31 年度 事業計画・予算（案）について

(2) 平成 30 年度補正予算（案）について

- (3) 就業規則の変更について
- (4) 評議員の解任および評議員候補者の推薦について
- (5) 苦情解決における第三者委員の選定について
- (6) 人事について
- (7) 平成 30 年度 第 2 回評議員会の招集について

3 監事監査

平成 30 年 5 月 14 日、15 日、16 日、18 日（本部 会議室）

4 評議員会

① 平成 30 年度 第 1 回評議員会 平成 30 年 6 月 21 日(木) 10 : 00~11 : 34（本部 会議室）

- (1) 平成 29 年度 事業報告・決算について
 - (2) 社会福祉充実計画について
 - (3) 役員、評議員及び評議員選任・解任委員の報酬に関する規程の変更について
- 報告事項 ・平成 29 年度 監事監査について

② 平成 30 年度 第 2 回評議員会 平成 31 年 3 月 27 日(水) 10 : 00~10 : 55（本部 会議室）

- (1) 平成 31 年度 事業計画・予算（案）について
 - (2) 平成 30 年度 補正予算（案）について
- 報告事項 ・B 型事業の開設について
- ・「丸岡南中事業所生活介護型の廃止」および「あわら事業所生活介護型の拡充」について
 - ・グループホームにしやま寮の廃止について
 - ・グループホームかえで寮の廃止について
 - ・今立作業所の廃止について
 - ・苦情解決における第三者委員の選定について

5 室長・所長会議の開催（13 回開催）

4 月 2 日 新年度の方針について

- ・方針を周知し、それに沿って事業にあたる意識の統一を図った。

5 月 28 日 A 型事業改善の進め方について

- ・A 型事業における経営状態の把握が事業毎で必要であるため、PDCA サイクルで、明確な年間目標を立てて改善活動に取り組むこととした。

6 月 21 日 B 型事業の設立について

- ・各市町で B 型設立が可能であり、申請書類を提出する必要があるため、どの事業所・部門が良いか、また、B 型へ移行可能な利用者の検討等を行っていくこととした。

- 7月 20日 GHの今後について
- ・借地借家の物件で運営しているグループホームおよび修繕が必要な箇所もあるため、今後継続して運営していくのか検討を行った結果、具体的な計画を作成し、再度協議していくこととした。
- 8月 2日 サービス利用契約書の見直しについて
- ・8月中に、事業所より全利用者の契約確認・アセスメントの提出を行い、本部にて契約書の内容を顧問弁護士に確認することとした。
- 9月 12日 A型事業の収支状況および今後の運営について
- ・損益分岐点の表を基に、今後A型で継続するのかB型へ移管するのかを、次回の所長・室長会議にて各事業所長より報告することとした。
- 10月 15日 A型事業の収支状況および今後の運営について
- ・各事業所からの報告内容を基に、次月の室長・所長会議にて、A型・B型の作業種目を確定することとした。
- 11月 29日 A型事業の収支状況および今後の運営について
- ・A型・B型について社会保障やメリット・デメリット等、利用者や保護者へ説明する必要があるため、本部にてマニュアルを作成し、12月9日までに提示することとした。
- 12月 21日 B型事業の考え方について
- ・本部で作成したマニュアルを基に、法人で統一見解となるよう利用者、保護者への説明を行い、問題点等を共有することとした。
- 1月 18日 A型事業の収支状況および今後の運営について
- ・B型での工賃がいくら払えるのかの提示も必要であるため、社保・所得税・年金等の問題を洗い出し、また、各事業所よりB型移行の利用者・保護者と話しての問題・課題点を洗い出して報告することとした。
- 2月 15日 GHにかかる電気代の利用者負担について
- ・全員が統一して運用できるように、ルールは総務室より起案し、理事長名で配信することとした。
- 3月 6日 各事業所の課題について
- ・今年度を振り返り、課題・問題点について現在までの進捗状況の把握を行った。
 - 年次有給休暇の付与について
 - ・今年5回の有給取得義務化について制度の周知を行い、取得方法は各事業所が現場の状況に合わせて計画的に取得していけるよう計画表を作成することとした。
- 3月 15日 当法人の利用者の事故状況について
- ・平成26年度から30年度までの当法人における利用者の事故状況の分析により、比較的事故が多い月や時間帯、年齢等を知ることによって事故の軽減、予防の周知を行った。

平成 30 年度事業計画	平成 30 年度事業実績
<p>1. 目標と重点施策</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人財定着および確保に向けた職場環境の整備 ・利用定員充足率 100% ・全事業所が連携できる体制作り ・施設整備及び処遇改善のための財源確保 <p>重点施策</p> <p>【総務室】(総務部門)</p> <p>重点施策①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人財定着 <p>職場における課題の把握に努め、早期解決を図るため、事業所巡回(意見交換会)の実施。(6カ月に1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい職場環境作りの一環として、有給取得状況の把握を行い、有給取得を推進する。(3カ月に1回) <p>重点施策②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人財・利用者確保 <p>学校からの実習や、見学受入を増やしていけるよう、学校訪問を計画的に行う。(3カ月に1回)</p>	<p>1. 目標と重点施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30年度から定年65歳とする就業規則に変更した。 ・定期昇給・資格手当支給を開始し、有給取得推進を行った。 ・育児・介護休業等に関する規程の見直しを行った。 ・有期雇用契約から無期転換への実施(嘱託2名)を行った。 ・定員に対する充足率は法人全体で90%であった。事業所別では、福井85%、若狭82%、丸岡南中117%、おくえつ93%、あわら100%、小浜100%、丹南99%であった。 ・栄養士(食品部門担当)連絡会、サビ管連絡会、支援力向上委員会を実施し、各事業所が連携できる体制を整えた。 ・四半期毎の予算進捗管理を実施した。経年劣化のため、各事業所において、修繕箇所があったため、修繕計画を作成し、次年度より計画に沿って取り組むこととした。 <p>重点施策</p> <p>【総務室】(総務部門)</p> <p>重点施策①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月に理事長巡回を実施し、各職員等から意見を徴取する。また、12月には財務室主導により、事業所内現金管理等の指導を中心に巡回。理事長巡回時には人員補充や設備入替等の要望を聞き、求人、修繕を実施。求人活動としては、説明会等に出席、また、新聞等に求人広告の掲載などを行い、職員の採用9人、嘱託職員の採用7人に繋がった。 ・31年度施行の5日取得義務化に向けて、3ヶ月に1回有給の確認を実施した。全く取得できていない事業所もあったため、下半期は取得を推進し、取得に繋がった。 <p>重点施策②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短大、大学については3ヶ月に1回、高校については1回の訪問であった。短大については、実習生4名、および見学者2名、大学については、見学者1名と前

重点施策③

・事業所が連携できる体制作り
衛生管理や業務内容の底上げをすることを目的に、関係事業所が集まって取り組む機会の構築をする。(労働衛生会議、栄養士連絡会等)

【総務室】(相談部門)

重点施策①

・地域や利用者が必要とされる相談支援事業所の確立
利用者の多様なニーズに対応できるよう関連機関との協力体制整備。これにより新たな相談利用者の確保を行う。(新規相談+50件(福井地区10 あわら地区10 若狭地区30 現状184件)

重点施策②

・各事業所の定員充足率100%に向けた協力体制の構築
各事業所の利用者定員状況を定期的に確認し、定員充足に向けて取り組む(事業所状況確認 毎月実施)

年よりも増加したが、採用等には繋がらなかった。

重点施策③

・9月に栄養士連絡会を実施。献立作成の手法変更や法人内他事業所の厨房視察などを行い、連携を図った。また、サビ管連絡会を開催し、その後サビ管間で継続的に実施している。労働衛生に関しては実施することができなかった。

【総務室】(相談部門)

重点施策①

・高齢利用者の利用についての検討などの課題が多く、新規利用者の確保には繋がらなかった。
・高齢のGH利用者(あわら)の別サービスへの移行に向け、あわら市地域包括支援センターと連携。その後、介護保険施設へ移行した。
・GH利用者の金銭管理としてあわら市社協、坂井市社協と連携。新たに3名金銭管理利用となった。
・福井県相談支援専門員協会からの情報により、光道園が新GHを作るということを知り、身体障がいのある利用者の方が移行した。また、高齢利用者も同法人へ移行とした。
・高齢の利用者の別サービスへの移行に向け、ひかり包括支援センターと連携。その後、介護保険施設との併用となった。
・その他、保護者が高齢の方については、かすみヶ丘学園のショートステイを利用、若越ひかりの村においては数回の見学を実施し、高齢GH利用者の移行を行うなど、上記の関連機関との連携を図り情報提供をうけ、相談を行った。また、他の法人との関わりも見学などにより関係性を築いてきた。
新たな相談利用者の確保については、若狭のみ達成できた。

重点施策②

・上記に記載のとおり困難事例等の課題が多く、定員充足に向け、積極的に取り組む事は出来なかったが、定員の状況については、毎月一度はモニタリングにて事業所を訪れるので、その際に月に一度は確認を行った。また、その他にも移行時のケース会議や、所長会議時にも状況を把握した。他法人からのGH・A型利用などの話はあったが、利用まで繋げることはできなかった。(生活保護受給者や、保護者がいない方などのケースが多かったため)

重点施策③

・相談支援専門員の資質向上
相談支援員間の連絡会を行い、情報共有および個人のレベルアップを図る（連絡会 毎月実施）

【財務室】

重点施策①

・適正な資金管理
毎月予算進捗管理を行う。経理規定（細則）を策定する。

重点施策②

・事業の整理
将来の大規模修繕や職員の処遇の改善を行う財源確保のために、期限を定め、収支改善の見込みが立たない部門の廃止を検討する。

重点施策③

・契約の見直し
全事業所における業務委託や取引先業者の見直しを行い、法人内部で賄えるものや一括購入を検討する。

重点施策④

・各事業所の在庫管理方法、原価の算出方法を統一し、就労支援事業支出の見直しを行う。

【企画事業室】

重点施策①

・A型事業の再編
各事業所のA型事業の課題を抽出し、事業の再編を行う。それにともない、事業の統廃合や新規事業の獲得、B型事業の開設に取り組む。

重点施策③

・連絡会を行い、特にあわら・福井間で、困難ケースについての協議や、ケースの引き渡しなどを行い、効率化を図った。しかし、福井相談員1名の退職にあたり、相談専門員の有資格者が少ないことや、事業所の支援員不足もあり、後任を補充するまで時間がかかってしまい、十分な引き継ぎの時間を確保することができなかった。

【財務室】

重点施策①

・予算進捗管理は4半期毎に行った。2月から、給付費収入・材料費について、毎月の管理を行うようにした。
小口現金の管理方法や、契約担当者の範囲について、経理規程（細則）の策定を行った。

重点施策②

・利用者の業務内容・部門の収支状況等を考慮し、B型事業をあわら、丹南、おくえつ、若狭と4カ所開設した。A型の既存事業の見直しも継続して行った。

重点施策③

・経理規程に基づき、3社以上（金額によって2社以上）から、今まで取引していた業者だけでなく、新規の業者も含めて見積もりを徴し比較するようにした。材料費においては、各事業所の仕入れ金額を調べ、他法人と比較する機会を設けた。その結果、当法人は、同一品でも安い単価で仕入れていることがわかったが引き続き、新たな業者の開拓をしていくこととした。

重点施策④

・在庫確認は事業所で行うようになったが、原価の算出方法の統一には至らなかった。継続して行い、支出の見直しを行う。

【企画事業室】

重点施策①

・利用者の業務内容等を考慮し、B型事業をあわら、丹南、おくえつ、若狭と4カ所開設した。A型の既存事業の見直しも継続して行った。

平成 30 年度事業計画	平成 30 年度事業実績
<p>1. 目標と重点施策</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場環境の改善 ・支援能力向上 ・利用者の確保 <p>重点施策①</p> <p>○ 職員の配置と業務分担の見直しを行い、業務の平準化を図る。就労事業間での協力体制の構築を行う。</p> <p>重点施策②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残業の削減。業務時間内にケア会議や個別支援計画の見直しを行う。それに伴い、残業の削減と支援内容の改善と向上を図る。 <p>重点施策③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修への積極的な参加と参加できる体制づくり ※ 署間の応援体制を整える。必要な研修については、積極的に参加を促す。※1人1研修に参加 <p>重点施策④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人の資格取得助成制度の活用。必要な資格については、計画的に制度を有効活用する。 ※介護初任者研修1名 フォークリフト1名以上 <p>重点施策⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の確保。実習の受け入れを積極的に行う。特別支援学校へ実習前に営業を実施する。(4月、9月) 相談支援への各サービスの空き状況を提供し、利用していただけるようアピールする。 	<p>1. 目標と重点施策</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残業については改善ができた。 ・ケース会議を定期的に行い支援向上に努めた。 ・重度および高齢の利用者の個々にあった入所施設や高齢施設へのサービス移行はできたが、新規の利用者確保はそれ以下となってしまう、利用者減となってしまう。 <p>重点施策①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法定基準はクリアしているが、兼務体制や部署の職員1名体制を改善できず、休日のイベント担当の対応等で休日に取りにくい環境となっていた。来年度も継続して行う。 <p>重点施策②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務時間内に職員会議や支援内容の進捗を行い残業の削減が出来た。 <p>重点施策③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部署間の協力体制を実施し必要な研修に参加することができた。職員は1人1研修を受講。 <p>重点施策④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、資格取得助成制度の活用を計画していたが、1名も受講に至らなかった。2019年度は、資格助成2名を予定している。 <p>重点施策⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井特別支援学校、福井南特別支援学校へ定期的に訪問を行った。今年度新規利用者は、介護2名、宿泊型1名、短期4名となる。そのうち新卒2名。

2. 全体事業内容

事業内容	定員	29 平均 利用人数	30 年度目標 利用者数
就労継続 A 型	20 名	20 名	22 名
生活介護	40 名	36 名	40 名
日中一時	10 名	5 名	7 名
宿泊型自立訓練	20 名	13 名	12 名
短期入所	6 名	5 名	5 名
いづみ寮	5 名	5 名	5 名
みどり寮	6 名	5 名	6 名
グリーンハウス	7 名	6 名	7 名
かえで寮	5 名	4 名	5 名

3. 個別事業の説明

【就労継続支援 A 型】

全体

- ・社員が中心に活躍できる職場づくり。
- ・社員の適性を確認し、部署・事業所などの異動を実施し、適材適所の配置を行なう。

①食品加工

- ・ HACCP に基づいた衛生管理の徹底。
温度管理などの記録は社員が行うなど役割分担をすることで衛生管理への意識向上を行う。

- ・ 人員の適正数の配置。

弁当部門・食堂部門において社員のタイムスケジュールを作り、無駄のない人員配置で業務を行う。

- ・ あわら・丸岡地区の弁当製造（約 80 食）を行う。
配達は、社員を中心に行うことで職員の人員過多にならないようにする。

②営農

- ・ 機械での作業が少ない畑作(長ネギ・大根)を行い、社員が中心でできる仕事を増やす。農・福・地域連携として、収穫した大根については高志中学校の学校給食に提供する。

2. 全体事業内容

事業内容	定員	30 年度目標 利用者数	30 平均 利用人数
就労継続 A 型	20 名	22 名	22 名
生活介護	40 名	40 名	34 名
日中一時	10 名	7 名	4 名
宿泊型自立訓練	20 名	12 名	8 名
短期入所	6 名	5 名	4 名
いづみ寮	5 名	5 名	5 名
みどり寮	6 名	6 名	5 名
グリーンハウス	7 名	7 名	7 名
かえで寮	5 名	5 名	5 名

3. 個別事業の説明

【就労継続支援 A 型】

全体

- ・社員の特性を考え社員が力を発揮できる職場に努めた。
- ・職場の責任者と協議し適材適所を実施した。

① 食品加工

- ・衛生管理の徹底をマニュアル化し社員が行えるよう支援すると同時に意識向上を図った。

- ・社員のタイムスケジュールを作り、効率を考えた人員配置を行なった結果、効率的に業務が出来た。

- ・配達社員を中心に行ったが、イレギュラー時の対応ができず、31 年度はマニュアル化し対応を図る。

② 営農

- ・今年度は、大根、ネギの作付けを行い、高志中学校へ 11 月～2 月にかけて収め、大根は若狭事業所にも収めることができた。

・耕作・作業スケジュールを作成し、一年間通して作業が確保できるようにし、収益確保を行う。

③受託

・鯖江電子を施設外就労に位置づけ、一般企業内での仕事を通じ社会経験を積むことで見聞を広げる。

・作業効率を上げるため、年間を通しての作業を受注できるようにする。

【生活介護】

①福井

利用者の確保。

・活動内容の充実を図る。

個別対応活動の時間を設けた支援を行う（週1回以上/人）

・継続した生産活動を行う。

ヨーグルト容器の作業の利用者を増やす。現在2名→目標5名

②今立

今立作業所の廃止に伴う取り組みを計画的に進める。

・利用者への個別面談を行い、今後の進路を決める。福井事業所での受け入れを希望される利用者は受け入れを行う方向で進める。

【宿泊型自立訓練・短期入所】

・利用者の確保。

相談支援員、関係機関、特別支援学校への営業を行う。特別支援学校は、定期実習の前（4月・9月）に訪問し、日中と短期入所を組み合わせた実習を進め、今後の利用につなげる。

・天候等で一部スケジュール通りできなかったが、ほぼ作業の確保が可能となった。

③ 受託

・施設外就労の4名中2名が一般就労へという目標へと変わった。そのうち、1名は同じような仕事をしてみたいという目標になった。

・年間通しての作業受注ができ、年度当初は1ヶ月(1,000枚)の受注分を20日間かかっていたが、15日間に短縮はできた。空いている時間で福井事業所内のタイルカーペットの張替えなどの仕事をし、収入増につながった。

【生活介護】

①福井

・福井南特別支援学校の進路指導の担当教諭に情報提供を行ったことで、高等部1年生の実習受け入れ。

・現在は、歩行器や手すりを使った歩行訓練、個別での要望がある活動を午後に取り入れたりしている。

・生産活動を行うことで、利用者が働く意欲に繋がり、現在3名作業に入る。

②今立

・平成31年3月31日で廃止となる。

・利用者は全員他施設への移行が決まる。

【宿泊型自立訓練・短期入所】

・自立支援協議会にて空き情報の提供を行った。

特別支援学校に定期的に訪問し利用に繋がられるよう努めた。2名の希望があり、短期入所で経験し、1名利用することになった。

<p>【グループホーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世話人および生活支援員を適正配置し、生活の質の向上および地域移行へ向けた支援の充実を図る。 ・地域移行へ（1名以上） ・地域の行事への参加。（年2回以上） <p>【日中一時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の確保。 <p>他日中一時支援事業所が殆ど行っていない入浴支援を特別支援学校や相談支援員へアピールし利用者の確保に努める。現在の利用者の受け入れ回数増を促す。</p>	<p>【グループホーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回世話人会議を実施し寮生の状況等を連携し、支援の統一化を図った。 ・地域移行の希望者が数名いるが、まだまだ課題などがあり地域移行にはつながらなかった。引き続き支援を行い地域移行につなげていく。 ・福井市の一斉避難訓練、地域の清掃活動や祭りなどへの参加をした。 <p>【日中一時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットを作成し、利用者の満足度向上のため誕生日カード作成や広報誌を作成し、特別支援学校や相談支援事業所などへ配布する。
---	---

平成 30 年度事業計画	平成 30 年度事業実績
<p>1. 目標と重点施策</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者・社員の適正を見極め、ニーズに沿った作業や活動を提供し自立に向けた支援を行う。また、虐待に対する意識改革を行い、利用者が安全安心に過ごせるよう全職員が虐待防止に取り組む。 <p>重点施策①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A 型事業の作業見直し <p>社員主体の作業となることを前提に、コンビニ・バイク・食品加工作業の見直しを行う。</p> <p>重点施策②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画の充実 <p>職員個人の思いこみを排除し、利用者それぞれの状態に合った支援計画を適切な時期に作成し、利用者・保護者の確認のうえ、支援を行う。事例検討会の実施（1 回／月）</p> <p>重点施策③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止の徹底 <p>職員セルフチェックの実施（1 回／月） 外部研修への参加（2 名／年） 内部研修【適切な支援・不適切な支援】を行い、職員の虐待防止の知識高める。（4 回／年）</p> <p>重点施策④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社員・寮生の地域生活への移行の促進 	<p>1. 目標と重点施策</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社員 6 名の部門間異動を行った。職員会議で虐待に関する事例検討等を行い虐待防止研修を行った。 <p>重点施策①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他部門よりレジが出来る社員（2 人）を育成し、又休日の早出・遅出業務も社員に移行することで、ほぼ社員主体のコンビニとなった。食品加工は業務内容の変更により社員が出来る作業の割合が増えた。 <p>重点施策②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別支援進捗率 79.8%。虐待防止事例検討を職員会議で実施。自立支援協議会の事例検討会に毎月 1 名以上出席をした。 <p>重点施策③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルフチェック 1 回/年、県虐待防止研修参加 2 名、職員会議では事例検討を実施した。 <p>重点施策④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あじさいホームから 1 名地域生活へ移行した。

2. 全体事業内容

事業内容	定員	29 平均 利用人数	30 年度目標 利用者数
就労継続 A 型	30 名	37 名	34 名
生活介護	14 名	10.6 名	17.5 名
日中一時	15 名	3.2 名	3.4 名
介護保険	10 名	0.8 名	2 名
わかさ寮	20 名	19.1 名	19.5 名
短期入所	3 名	2.5 名	2.7 名
おとおば寮	8 名	7.2 名	7.5 名
相談支援	—	—	30 名

3.

個別事業の説明

【就労継続支援 A 型】

①食品加工

・野菜の一次加工と惣菜製造の強化し、社員主体で作業を行う。生協弁当終了後、地域スーパーと連携し新商品製造目標受託金額 250,千円/月(前年比 30%増)
 (有)フィールドワン (大阪) H29.9 月より新規取引目標売上金額 154 千円/月 (前年度比 50%増)

②ベイク

・品質の平準化。レシピ通りの作業工程で作業を行う。丹南事業所と連携をして研修等により品質向上を目指す。外商販売の効率化。昼食時等の繁忙時間のみに外商販売を行う。製造数の上限を定め、社員主体で作業を行う。

③営農

・米の生産管理の徹底。生産管理を徹底し法人内で使用する米の生産を確実に行う。丸岡南中・鳴鹿小 7t、福井事業所 6.5t 若狭 5t

2. 全体事業内容

事業内容	定員	30 年度目標 利用者数	31 平均 利用人数
就労継続 A 型	30 名	34 名	34.1 名
生活介護	14 名	17.5 名	10.4 名
日中一時	15 名	3.4 名	1.6 名
介護保険	10 名	2 名	0.6 名
わかさ寮	20 名	19.5 名	17.4 名
短期入所	3 名	2.7 名	2.9 名
おとおば寮	8 名	7.5 名	8 名
相談支援	—	30 名	45 名

3.

個別事業の説明

【就労継続支援 A 型】

① 食品加工

・惣菜受託(ママーズストア)の材料(肉類)が支給となった事で原価率が下がった。
 ・多種多様の作業であるが社員のレベル把握と個性を生かして出荷までの作業をほぼ社員で行っている。
 ・(有)フィールドワンとの新規取引は続かなかったが、新たに小浜市より自社のへしこを使ったパーニャカウダーとおおい町の(合)くだものかりさんよりいちごジャム製造を行っていく。

② ベイク

・レシピ通りの工程で製造することにより情報共有ができた品質向上に繋がった。
 ・職員 1 名丹南事業所ベイク部門へ実習参加(3 日間)外商コースの見直しし効率よく販売。
 ・オリジナル商品の開発や店舗内に看板やのぼり旗を設置。
 ・包装材等の見直しを行いより「パン屋さん」を強調した。

③営農

・生産管理が上手くいかずに生産量が減少。苗の管理不足により枯らしてしまった。稲刈りのスケジュール管理が出来ず生産量減と材料費が上昇してしまった。

④パレア喫茶・清掃

・喫茶と清掃作業の支援を一体的に行う。(職員2名体制→1名体制)

喫茶メニューの充実。米飯メニューの拡大。(カレー、丼物等)

【生活介護・日中一時・介護保険】

・利用者の確保。定員充足を目標に相談支援専門員・学校・市町等との連携

・地域交流の充実。地域住民との交流機会を増やし、利用者の地域活動の充実

○地域住民の障がい者理解を深める。

ふれ愛交流まつりの継続 10月

小学校と交流会 5回/年

【グループホーム】

・充足率100%の維持。移動支援等の地域福祉サービスを活用して休日の余暇支援を充実する。おおとば寮の老朽化対応。地域や特別支援学校のGHニーズを調査検討した上で、おおとば寮立替・増設を計画する。地域交流の充実。

④パレア喫茶・清掃

・職員一人体制…能力向上により、平日は社員のみでの店舗運営も可能になった。職員のメイン業務は清掃管理へ移行した。

・メニューの充実…土日のイベント時は、ご飯もの等の自家製商品のラインナップを充実させた。

【生活介護・日中一時・介護保険】

・生活介護…3名の新規利用者を確保した。
日中一時…3名の新規利用者を確保した。

・ふれ愛交流まつりに参加した。

地域の小学校との交流会を実施した(5回/年)。

下夕中地区、大鳥羽地区でゴミ拾いを実施した。

下夕中地区、安賀里地区の祭りに参加した。

【グループホーム】

・休日の余暇活動を実施した(2回/月)。
地域の清掃活動に参加した。

平成 30 年度事業計画				平成 30 年度事業実績			
<p>1. 目標と重点施策</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員人員配置の適正化とともに職員一人一人の資質向上を図り、業務の平準化と利用者支援の充実を図る。 ・より安心・安全で美味しい給食と弁当の供給をする。 <p>重点施策①</p> <p>1 人年 2 回以上、法人内外の研修に積極的に参加し、職員の資質向上に努める。受講者には内部で講師となり職員会議の際に伝達研修を行う。(食品衛生法講習、HACCP 実務者研修、感染症対策研修会 虐待防止法研修等)</p> <p>重点施策②</p> <p>社員の教育強化を図り、栄養士、調理師を講師として社員向けに 1 ヶ月に 1 度以上研修を行い衛生面及び調理技術の向上を図る。</p> <p>重点施策③</p> <p>食品衛生アドバイザー奥田氏の定期チェックを 3 ヶ月に 1 度以上受け、衛生管理の徹底を行う。</p> <p>重点施策④</p> <p>納入業者の見直しを行い、価格だけでなく、より安心・安全な食事提供ができるようにする。</p>				<p>1. 目標と重点施策</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下処理作業での切り方のマニュアル化(見える化)を行い、誰もがマニュアルを見て作業できる環境を整えた。 ・異物混入(毛髪・紙片等)が 6 件発生し、今後についても衛生管理や身だしなみの強化が必要である。美味しい給食提供では、残食量が昨年度対比 24% 減となった。 <p>重点施策①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品、衛生管理に関する研修には常に 1 名以上受講することができた。また、それ以外の研修に関しても受講し、職員会議や終礼時に周知できた。 <p>重点施策②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 ヶ月に 1 度の研修はできなかったが、外部研修後に社員へ周知を行い、特にインフルエンザ、ノロウイルス流行時には朝礼、終礼時に対策や予防法などを周知した。 <p>重点施策③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥田先生から厨房内を巡回していただき、特に菌が増殖しやすい箇所(取っ手・冷蔵庫パッキン部分)について指導を受け、今後の対策等を教授頂いた。 <p>重点施策④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜部門で新規業者(2 月～)を選定し、価格競争を行っている。資材(手袋・ペーパー・マスク等)についても他事業所も含め統一を図り単価交渉を行っている。(5 月より実施予定) 			
2. 全体事業内容				2. 全体事業内容			
事業内容	定員	29 平均 利用人数	30 年度目標 利用者数	事業内容	定員	30 年度目標 利用者数	31 平均 利用人数
就労継続 A 型	14 名	22 名	25 名	就労継続 A 型	14 名	25 名	21.4 名
生活介護	6 名	4 名	5 名	生活介護	6 名	5 名	4.1 名
まち中ホーム	5 名	5 名	5 名	まち中ホーム	5 名	5 名	3.4 名
ハーツ丸岡ハイム	7 名	5.8 名	7 名	ハーツ丸岡ハイム	7 名	7 名	6.5 名

3. 個別事業の説明

【就労継続支援A型】

全体

・安全・安心・美味しいを基本とする。社員教育を充実させ、職員、社員が一体となって取り組む。異物混入「0」を目指す。仕入れ管理は29年度の取引業者を見直し、常に業者の選定等や交渉等を行う。

・社員は新しい部署への挑戦を試み、どの部署でも対応できる社員教育を行う。

①学校給食

・利用者の能力向上、適性を考慮し、他部署での作業の機会を増やす。

・異物混入「0」を目標に、衛生管理や作業前のチェックを徹底する。

②青年の家

・2部体制の構築をし、個人への業務負担過重をなくす。

【生活介護】

・レクリエーション活動の充実と個々に応じたサービスを提供し、来るのが楽しみな事業所を目指す。

・あわら事業所との合併を今年度中にできるよう計画を立て進める。

【グループホーム】

・規律を守り、自主性・社会性の幅が広がるよう生活支援員を手厚く配置し、夜間及び土日の支援を充実させる。地域移行(一人暮らし)に結びつくよう、自立に向けた生活能力向上を目指す。栄養士が献立した栄養管理の行き届いた食事提供や、個別のサービス提供向上に努め、健康保持と社会性向上を目指す。

3. 個別事業の説明

【就労継続支援A型】

全体

・異物混入0を目指したが、6件の異物混入(毛髪・紙片等)となった。今後についても衛生身だしなみの再確認が必要である。

業者については、野菜仕入れ業者を1社増やし価格競争を行い、材料費削減を行っている(2月～)

・社員2名の異動を行い新しい部署で挑戦し、資質向上に努めている。今後についても継続して行っていく。

①学校給食

・下処理作業から南中サテライトへ部署を異動し、新しい作業にチャレンジし能力向上に繋がった。

・6件の異物混入が発生し、社員が身だしなみをチェック後職員が再度チェックする。

②青年の家

・6月より職員が下処理業務から青年の家へ配置転換し、2部体制の構築を目指す。

【生活介護】

・活動の充実を図るため、所外活動(ゆりの里公園・きららの丘など)、健康活動(散歩・階段昇降など)、生産活動(ペットボトル回収)、創作活動(外部から講師を招いて消しゴムハンコ)を実施し、喜んで参加していた。

・あわら事業所へスムーズに移行できるように数か月前からあわら事業所で過ごす練習を重ね、4月1日に移行できた。

【グループホーム】

・専従の職員を配置できず、兼務職員となっていたため充実した支援の提供までとはいかなかったが、世話人を1名確保し、一部改善はされた。食事提供は、外部へ注文し、カロリーなど計算された食事を提供し、肥満対策などを行った。

平成 30 年度事業計画	平成 30 年度事業実績
<p>1. 目標と重点施策</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より働きやすくやりがいを持てる事業所になる <p>重点施策①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階層・業務に応じた研修参加・伝達研修を継続的に 行う。伝達研修後は振り返りの為に実践報告を行い各 職員、各部門のスキルアップ・レベルアップを図る。 <p>重点施策②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有給取得率向上の為、記念日にはシフト調整をして 有給休暇利用促し取得に努める。 <p>重点施策③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品加工において工房内を改修し衛生管理を強化し 安全で安心な食品工場を目指す <p>重点施策④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切なサービス提供を行う為、年 2 回以上の保護者 を含めた面談を実施する。又、総会など保護者を含め た行事を年 3 回、企画し実施する。 <p>重点施策⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原材料費及び水道光熱費において前年予算比 10%減 に取り組む。 <p>取組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30 年度は定休日を週 2 回として豆腐機械が稼働し ない日を増やし水道代・ボイラー等の光熱費削減を 行う。 28 年度…75 日 29 年度…85 日 (目標 90 日) 30 年度…目標 100 日 	<p>1. 目標と重点施策</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の人員不足で兼務が多かったが、年度末までにア ルバイトも含み 3 名補充する事が出来た。 (11 月に 1 名、3 月に 1 名) 業務に慣れるには時間がかかるので、30 年度において は働きやすい環境ではなかった。 <p>重点施策①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通り参加できたがすべて伝達研修を実施する事が 出来なかった。職員会議において実践報告を計画してい たが毎月できなかった。 <p>重点施策②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の半数は 1 月～3 月において駆け込みで 2 日間消 化するという状況だった。 <p>重点施策③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8 月に食品加工工房内天井貼り替え、機器・壁の洗浄 を行った。法人内、管理栄養士に衛生管理の指導を頂き 実施した。 <p>重点施策④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年 2 回以上の保護者を含めた面談を実施した。 総会、バーベキュー(スポーツ吹矢)、新年会を実施した <p>重点施策⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大豆一活購入を行なった。週 2 回の定休日の設定や、 とうふ製造中の節水に努めた。 29 年度材料費予算 8,797 千円に対して 30 年度材料費約 6,062 千円となった。前年度予算対比 32%減。 29 年度事業収入予算 36,830 千円に対して 30 年度事業 収入実績 33,346 千円となった。前年度予算対比 10%減 ・週 2 回の定休日は実施する事が出来た。製造しない日 は 95 日となった。

重点施策⑥

・月に1回、安全運転推進会議を実施し安全運転に努め事故ゼロを目指す。

2. 全体事業内容

事業内容	定員	29 平均 利用人数	30 年度目標 利用者数
就労継続 A 型	30 名	22.8 名	23 名
生活介護	10 名	6.1 名	8 名
たていし寮	6 名	5.6 名	6 名

3. 個別事業の説明

【就労継続支援 A 型】

全体

・営業を重ねて受注量を増やし仕事を確保する。社員の特性に配慮して一人一人が十分に能力を発揮できる配置をする。実習生の受け入れを行う。年間目標 2 名

① 営農

・もち米栽培（目標 60 俵）を行い餅部門で使用するもち米を全量確保する。

今年度は合わせて里芋の生産販売も行う。

② 食品加工

・とうふ部門社員の売上に応じて適正配置を行う。部門内の労働力を流動的に利用して生産効率を向上させる。製造環境を見直し安全な商品を提供する。

③ 自動車部品

・新規部品組付け作業を 3 種類増やす。（29 年度、常時出荷部品数 26 種）

重点施策⑥

・職員会議での注意喚起だけとなり会議を実施する事が出来なかった。30 年度…車両事故 1 件

2. 全体事業内容

事業内容	定員	30 年度目標 利用者数	30 平均 利用人数
就労継続 A 型	30 名	23 名	22.2 名
生活介護	10 名	10 名	5.6 名
たていし寮	6 名	6 名	5.4 名

3. 個別事業の説明

【就労継続支援 A 型】

全体

・自動車部品…新規組付け部品 3 種 食品加工…リカーワールド、勝山市内小学校 2 校と新規の仕事を確認する事が出来た。

・31 年 1 月より食品加工部門から 2 名自動車組付け部門に異動となった。

・A 型に奥越支援学校から 2 名実習生を受け入れた。

① 営農

・もち米 30 年度収量について餅米は肥料が水稻より多く必要だったが知識不足のため肥料が足りず 45 俵と目標には届かなかった。30 年度餅部門で使用したもち米は在庫分と合わせて全量おくえつ事業所産となった。

・里芋は福井事業所への出荷を 200 k g 出荷と来年度の種芋も 60 k g 確保して保管した。

② 食品加工

・能力や事業収入を考慮して製造社員を年度当初 11 名から 7 名にした。

・餅部門社員の労働力を豆腐製造で利用する為に豆腐製造ともち・おこわ製造の時間をずらして製造を実施した。

・衛生環境改善により、丸岡南中事業所との取引きを 11 月より再開した。

③ 自動車部品

・新規組付け部品 3 種獲得した。

<p>【生活介護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造化を推進し利用者が落ち着いて過ごせる環境を提供する。 ・生活介護全体のデイリープログラムの実施しと障がい特性に合わせた個別プログラムを実施する。 ・実習生の受け入れを積極的に行う。年間目標 2 名 <p>【グループホーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の特性に合わせた部屋割りの見直しを行い安全への配慮を行う。 ・余暇支援や地域の行事に参加し地域住民との交流を促進する。 ・たていし寮が充足率 100%の為、所内において寮利用の調査を行い新寮設立の検討を行う。 	<p>【生活介護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーテーションの利用や作業機の配置を利用者の特性に合わせて配置した。 ・納期が決まっていない作業を始めたため、午前は作業、午後は所外活動や書道・手芸等の創作活動と、1日の流れや個別プログラムを計画的に実施することが出来た。 ・見学希望は 1 人あったが実習は 0 人だった。 <p>【グループホーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2階に食堂、1階に風呂、洗濯場があるため年齢や体力に考慮して部屋割り見直しを実施した。 ・月に 1 度、職員が当番に入り外食など余暇支援を実施した。又、地域の夏祭りにも参加した。 ・新寮の設立は行わない。
--	---

平成 30 年度事業計画	平成 30 年度事業実績
<p>1. 目標と重点施策</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズに合わせた環境整備および、それに向けた支援能力の向上。 ・丸岡南中事業所の生活介護の統合。(あわら事業所拠点化) ・就労継続支援 B 型事業の開設。(平成 31 年度に向けて) ○ グループホームの居住環境整備。 ・職員の資質向上を目指した研修受講。 <p>重点施策①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 31 年度生活介護統合に向けての計画・施行の実施利用者それぞれの満足を考え多種多様な活動場所の選定 対象の利用者・保護者に対し、相談員と連携し面談、 ○ 説明を定期的に行い計画的に進める 介護職員としての人材育成 <p>重点施策②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労継続支援 B 型事業の設立に向けての計画 対象になる社員・利用者・保護者に対し相談員と連携を図り日頃から十分に説明・対応し計画的に進める <p>重点施策③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル事業について季節に応じた職場環境働きやすさを考え暑さ寒さの対策 	<p>1. 目標と重点施策</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業場、活動場所の確保を図ることから他法人が使用していた部分の返却をしてもらい、作業場所の見直しを図り、働きやすい環境整備を行った。 ・年度当初から計画を立て、介護スペースの増設工事などを行い、平成 31 年 4 月より統合。 ・年度内に計画の整備を行い、平成 31 年 4 月から新規開設。利用者も当初予定 3 名だったが、6 名となる。 ・老朽化していた「にしやま寮」について、平成 30 年 5 月を以って廃止。 ・支援に関する研修に参加し、知識向上を図った。 (サビ管研修 1 名、強度行動支援 2 名、虐待研修 1 名苦情解決 1 名等) <p>重点施策①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活介護従事職員や保護者との面談を実施し、活動場所を選定。多種多様な活動ができるようスペースの確保を行った。また、利用者がスムーズに移行できるよう定期的に体験等を実施した。 その他、人材育成の一環として、重度利用者が在籍する小浜事業所生活介護を職員・利用者とともに見学を行った。介護支援について研修を行った。 <p>重点施策②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切なサービスへの転換を図るため、対象の方については、相談員・保護者と定期的に面談を実施した。あわら事業所では生活介護から 3 名、就労継続支援 A 型から 1 名が就労継続支援 B 型へ移行となった。 <p>重点施策③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暑さ対策として、扇風機を増設。ミスト機の増設も検討したが、猛暑による在庫不足等で導入には至らなかった。

重点施策④

・グループホームで高齢化にも対応できる居住環境の整備、安全な居住空間を考えた平屋の物件への移行

重点施策⑤

・職員の資質のスキルアップ

研修会の積極的参加

精神障がいについての研修参加

2. 全体事業内容

事業内容	定員	29 平均 利用人数	30 年度目標 利用者数
就労継続 A 型	14 名	19 名	20 名
生活介護	6 名	5 名	6 名
たつかわ寮	5 名	4.7 名	5 名
にしやま寮	6 名	4.4 名	6 名

3. 個別事業の説明

【就労継続支援 A 型】

①リサイクル事業

・坂井市・あわら市集荷量の年々減少が見込まれる。市行政との交渉。回収ルートの見直しを行い回収率の向上を図るとともに、新たな新規回収先を確保することで回収量を増加させ収益改善を目指す。目標：新規回収先 5 か所

②軍手事業

・生産から販売と一貫した流れをもっており、それぞれの社員の能力に応じた作業工程の見直しを実施する。編み機の老朽化による生産低下のため、編み機の更新することで生産能力の向上を図る。市町行政・大口の商談営業の強化を図り売上に繋げる。目標：年間売上 100 万円増

③施設外就労

・施設外就労を一般企業への過程とし学び経験することで一般企業への就労に繋げる。社員ができる作業種目を増やし定期的に担当者との打ち合わせを実施する。目標：施設外就労社員 7 名(現在 6 名)

重点施策④

・あわら市内にて、空き家の活用が出来ないかを検討した。市内に多くの空き家があることが分かったが、移行までの議論までには至らなかった。

重点施策⑤

・全職員 2 回以上の研修に参加しスキルアップを図った。

精神障害研修については 1 名の参加し、事業所内で伝達・報告を行い事業所内で周知を図った。

2. 全体事業内容

事業内容	定員	30 年度目標 利用者数	30 年度実績 平均利用数
就労継続 A 型	14 名	20 名	17.7
生活介護	6 名	6 名	3.8
たつかわ寮	5 名	5 名	4.6 名
にしやま寮	6 名	6 名	廃止

3. 個別事業の説明

【就労継続支援 A 型】

① リサイクル事業

・行政からの入荷量が前年比 94% (6 t 減)。現在入荷のない丸岡町からの取得を坂井市と交渉するが繋がらず。自主回収については、新規回収先目標 5 件に対し 4 件、および期間限定ながら自販機メーカーが事業所へ缶の持ち込みをしていただき、回収量の確保に努めた。

② 軍手事業

・機械配置の変更等を行い、作業導線の見直しを実施し、作業効率の向上を図った。また、編み機は、定期的に点検を実施し、更新は見送った。売り上げについては、目標 100 万円増に対し、30 万増と未達。行政等からのスポット受注は新規受注となったが、その他の販売先確保には至らず。

③ 施設外就労

・作業種目増を目指し取り組んだが、現作業種での検品ミス等もあり、増には繋がらなかった。それにより、人員も 6 名と現状維持となる。その他、定期的に訪問し、業種の単価交渉を実施。1 種だが値上げに繋がる。全体の売り上げとしては、前年プラス 10 万円。

【生活介護】

・あわら・丸岡生活介護の統合は相談支援と連携し、利用者、保護者に対し、十分な面談や移行期間をとり進めていく。

【グループホーム】

・余暇活動の支援・自分での買い物に向け交通機関を活用できるよう支援する。防災・不審者による訓練の実施。過ごしやすい居住環境への移行。

【生活介護】

・夏ごろから、利用者・保護者と面談を実施。丸岡の利用者が、定期的にあわら事業所で昼食をとるなどを行い、新たな場所になれるよう取り組んだ。3月には、毎日あわら事業所で活動を行い、丸岡利用の4名すべてがあわら事業所へ移行となった。

【グループホーム】

・3ヶ月一度のペースで、利用者の希望を聞きながら食事会を実施。その際、ショッピングセンター等に行き、買い物支援を行った。また、避難訓練は、消防・警察の協力も得て年間4回（火災2回、地震1回、不審者1回）実施し、地域の防災訓練にも参加した。避難に対する意識付けを行った。

その他、過ごしやすい居住環境ということで、あわら市の協力を得て、今後、グループホーム移転等も含め空き家の見学を行った。

平成 30 年度事業計画				平成 30 年度事業実績			
<p>1. 目標と重点施策</p> <p>目標</p> <p>・活動プログラムの再編を進め、職員の資質向上を図ることでサービス提供の充実と利用者・職員共に過ごしやすい環境づくりに重点を置くと共に、地域活動の参加と施設外の情報発信を積極的に行い、利用者や地域から選ばれる施設を創る。</p> <p>重点施策①</p> <p>・サービスの向上と利用者増</p> <p>介護浴場の新設により、入浴サービス充実と利用者増を目指す。</p> <p>重点施策②</p> <p>・活動プログラムの再編</p> <p>生活介護・グループホーム共に、利用者に合った内容に再編する。</p> <p>重点施策③</p> <p>・職員の資質向上</p> <p>研修参加・資格取得を促し、知識と介護技術の向上を図る。</p> <p>重点施策④</p> <p>・快適な施設づくり</p> <p>安全で綺麗な環境を整え快適な施設づくりを目指す。</p> <p>重点施策⑤</p> <p>・地域定着と情報発信</p> <p>地域行事の計画的参加と、関係機関や地域に情報発信を行う。</p>				<p>1. 目標と重点施策</p> <p>目標</p> <p>・活動プログラムにリハビリや軽作業を新たに取り入れるなど、目標全体としては概ね取り組むことが出来たが、利用者確保については大きく下回る結果となっており、今後の大きな課題となった。</p> <p>重点施策①</p> <p>・サービスの向上と利用者増</p> <p>平成 30 年 3 月に特殊浴槽を備えた介護浴場を改修により設置完了し、年度内に入浴サービス提供者 4 名増。</p> <p>重点施策②</p> <p>・活動プログラムの再編</p> <p>リハビリや新たな軽作業を取り入れ、今まで以上に個々に応じた活動の提供に繋がった。</p> <p>重点施策③</p> <p>・職員の資質向上</p> <p>全支援員が年 1 回以上の研修に参加した。都度所内での伝達講習により共有も図り資質向上に取り組めた。</p> <p>重点施策④</p> <p>・快適な施設づくり</p> <p>毎日の清掃を始め、整理整頓や模様替えなど安全と美化を強化することが出来た。</p> <p>重点施策⑤</p> <p>・地域定着と情報発信</p> <p>年間を通じて地域行事に参加し、地域住民や関係機関との連携を図ることが出来た。</p>			
2. 全体事業内容				2. 全体事業内容			
事業内容	定員	29 平均 利用人数	30 年度目標 利用者数	事業内容	定員	30 年度目標 利用者数	30 年度実績 平均利用数
生活介護	20 名	20.1 名	23.1 名	生活介護	20 名	23.1 名	19.7 名
しいの実ハウス	7 名	7 名	7 名	しいの実ハウス	7 名	7 名	5.8 名

3. 個別事業の説明

【生活介護】

・特殊浴槽を備えた介護浴場を整備することで、入浴サービスの充実を図る。また、これに併せて施設内外に入浴サービス提供施設をアピールし、利用者募集を行うことで利用者増を目指す。

＜入浴利用者：現 3 名⇒介護浴場整備後 5 名、次年度更に 2 名増を図る＞

＜平均利用者数：29 年度見込 20.1 名/日 ⇒ 30 年度目標 23.1 名/日＞

・活動部屋の区分けと、生活介護プログラムを再編を継続して見直し軽作業(内職)請負等を活動に取り入れる働く利用者と、入浴サービスやりハビリを中心とした重度利用者の支援にグループ分けをする。これによ

り、中身のある充実した支援計画としサービスの向上を図る。

・29 年度に引き続き、職員を全員年 1 回以上研修に参加させ、毎月 1 回開催の所内会議にて伝達講習を行い、支援力の向上に努める。又、介護浴場整備に併せて介護技術の向上を図る。

・危険個所の排除と、清掃や掲示物等を整え美化に努める。引き続き利用者の活動スペースと従業員の休憩スペースを整備し、快適な職場に努めると共に明るい施設づくりを目指す。必要に応じた修繕を実施する。

＜エアコン修理：800 千円、玄関シート張替え：500 千円、屋根雨どい：1,500 千円＞

・奉仕活動や夏祭りなどの地域行事に計画的に参加すると共に、入浴サービス提供施設をアピールするなど関係機関や地域に情報発信を行い、地域に根ざした施設を目指す。これにより、新規利用者の確保を図る。

【グループホーム】

・安全体制を充実すべく、避難訓練を年 4 回以上行い継続して見直しを図る。

・余暇の過ごし方や共有スペースでの過ごし方を見直し、より中身のある充実した支援計画としサービスの向上を図る。

3. 個別事業の説明

【生活介護】

・平成 30 年 3 月に特殊浴槽を備えた介護浴場を改修により設置完了し、新規入浴サービス利用者の募集を行ったことで入浴サービス利用者及び新規利用者増に繋がった。しかし、現利用者で長期欠席や退所などで平均利用者数は目標に大きく届かなかった。

＜入浴利用者：現 3 名⇒介護浴場整備後 6 名に増＞

＜新規利用者：2 名増＞＜平均利用者数：30 年度目標 23.1 名/日 ⇒ 実績 19.7 名＞

・計画に沿ったグループ分けを試みてきたが、新たな軽作業等で個々に応じた活動を提供することが出来た反面、グループ分けの定着がなかなかできず毎日模索中といったところである。

・支援員全員が年 1 回以上研修に参加することができ、毎月の所内会議にて伝達講習を行い共有に努めた。これにより支援力の向上に繋がった。

・毎日の清掃を始め、整理整頓や模様替えなど安全と美化を強化することが出来た。また、必要な修繕も値段を抑えて滞りなく実施することが出来た。

＜エアコン修理：437 千円、玄関シート張替え：100 千円、屋根雨どい：156 千円＞

・奉仕活動や夏祭りなど地域行事に積極的に参加した。入浴サービス提供施設のアピールを関係機関にチラシなどを配布して情報発信を行った。これにより、新規利用者の獲得に繋がった。

【グループホーム】

・避難訓練を年 6 回実施し都度課題点などを洗い出し次回訓練に繋がるように行った。

・DVD鑑賞やクッキングなどを取り入れながら、余暇の過ごし方の充実を図った。

<p><DVDプレーヤー、観葉植物の購入 5月花見、12月クリスマス会の実施></p> <p>・地域行事に計画的に参加し、利用者の地域参加と住民の認知を図ることで、地域に根ざした施設を目指す。</p>	<p>DVDプレーヤー購入、観葉植物設置、花見、クリスマス会を実施した。</p> <p>・地域の祭りに参加したり、地域をウォーキングするなど積極的に地域との関わりを増やすように取り組んだ。</p>
--	--

C

O

平成 30 年度事業計画				平成 30 年度事業実績																			
<p>1. 目標と重点施策</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般就労を目指し社員が主役になれる職場環境を整える。 <p>重点施策①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社員が作業の中心になれるように、楽市・丹南において遅番・早番のシフトに入る。そのために必要な宿泊先等の体制を整える。 <p>重点施策②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般就労に 1 名以上就職できるよう支援を行う。障害者就業・生活支援センターとの連携を活用しながら、積極的に一般企業にアプローチをかける。 <p>重点施策③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理を徹底して行い、研修を 4 回/年行う。(インフルエンザ・ノロウイルス・食中毒対策) <p>重点施策④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務作業・現場作業においてマニュアル化に努める。新たな作業もスムーズに移行できるよう文章・写真を用い書面で残しておく。 				<p>1. 目標と重点施策</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社員全員が公共交通機関を使って出勤できる体制をつくり、繁忙期の際には社員が残業を行い、職員はそのフォローを入れるよう調整した。 <p>重点施策①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽市の遅番・早番に積極的に社員が入る体制をつくる。遠方から出勤している社員に関しては近くの GH に入所したり、短期入所の手続きを行い利用した。延べ 2 名 <p>重点施策②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般企業に 1 名就職する。就職後福祉サービスとのパイプを繋げておくために障害者就業・生活支援センターに登録を行った。 <p>重点施策③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部研修 (ノロウイルス・異物混入対策・HACCP 実務者研修) 延べ 3 回 ・衛生講習 (手洗い・異物混入対策) 延べ 1 回 <p>重点施策④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場作業においては写真等を用いて作業工程がわかるように改善を継続する。事務作業等のマニュアル化においては、改善に至らなかった。 																			
<p>2. 全体事業内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業内容</th> <th>定員</th> <th>29 平均 利用人数</th> <th>30 年度目標 利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就労継続 A 型</td> <td>20 名</td> <td>21 名</td> <td>22 名</td> </tr> </tbody> </table>				事業内容	定員	29 平均 利用人数	30 年度目標 利用者数	就労継続 A 型	20 名	21 名	22 名	<p>2. 全体事業内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業内容</th> <th>定員</th> <th>30 年度目標 利用者数</th> <th>30 年度実績 平均利用数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就労継続 A 型</td> <td>20 名</td> <td>22 名</td> <td>19 名</td> </tr> </tbody> </table>				事業内容	定員	30 年度目標 利用者数	30 年度実績 平均利用数	就労継続 A 型	20 名	22 名	19 名
事業内容	定員	29 平均 利用人数	30 年度目標 利用者数																				
就労継続 A 型	20 名	21 名	22 名																				
事業内容	定員	30 年度目標 利用者数	30 年度実績 平均利用数																				
就労継続 A 型	20 名	22 名	19 名																				
<p>3. 個別事業の説明</p> <p>【就労継続支援 A 型】</p> <p>① ベイク (丹南)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹南自家製生地の製造が順調に進んでいるため、引き続き生産を行う。早番の時間帯に社員の出勤ができるよう生活面と併せて調整していきたい。 				<p>3. 個別事業の説明</p> <p>【就労継続支援 A 型】</p> <p>① ベイク (丹南)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早番の時間帯に出勤できるよう、他福祉施設と連携し近くの GH に入寮を行った。外販を社員のみで計画していたが、想定した 1 名の社員 																			

また、パンの外商販売を社員のみで行えるよう、外販先・順路・緊急体制・金銭管理の支援を行う。

②楽市

・他事業所から、社員の実習等を行い遅番の体制を社員でできるように整える。また、一般企業希望者を募り障害者就業・生活支援センターと連携して1名以上一般就労を目指す。土曜日・日曜日にも配達を拡大し『丹生膳野菜』様にも卸す。

③スイーツ

・市役所・他こども園に営業行き、収入増につなげる。お中元・お歳暮のチラシを通年のカタログで作成・配布する。

④受託作業

・受託を社員1名で行っているが、高齢なため引きつぎを含めて2名の社員で行い継続して増産を依頼していく。また、新体制の際には商品検品にミスがないように職員がチェックする。

を楽市遅番のシフトに入れる事を最優先に取り組んだため取り掛かれていない。31年度引き続きできるよう支援を行っていく。

② 楽市

・4月に他事業所から1名異動になる。
・3月より一般企業に1名就職する。
・毎週土曜日に「膳野菜」に配達している。

③ スイーツ

・子ども園3ヶ所を周り、お祭りに使うパンの注文や、イベント（ハロウィン・クリスマス）に使うクッキー注文をいただいた。

④ 受託作業

・2名の社員で行い、引き継ぎも完了している。

平成 30 年度 決算報告

1	平成 30 年度 決算報告（平成 30 年度現計予算との比較）	1
2	平成 30 年度 決算報告（平成 30 年度現計予算との比較）	
	本部・渚（公益・収益）	2
	福井事業所	3
	若狭事業所	4
	丸岡南中事業所	5
	おくえつ事業所	6
	あわら事業所	7
	小浜事業所	8
	丹南事業所	9

C

C

平成30年度 決算報告(平成30年度現計予算との比較)

(単位:千円)

科目	合計			本部			福井			若狭			丸岡			おくえつ			あわら			小浜			丹南			港(公益・収益)				
	H30現計予算	H30決算	達成率	H30現計予算	H30決算	達成率	H30現計予算	H30決算	達成率	H30現計予算	H30決算	達成率	H30現計予算	H30決算	達成率	H30現計予算	H30決算	達成率	H30現計予算	H30決算	達成率	H30現計予算	H30決算	達成率	H30現計予算	H30決算	達成率	H30現計予算	H30決算	達成率		
就労支援事業等収支	収入	事業収入(弁当・パンなど)	362,582	346,848	96%	0	0	-	54,758	48,598	89%	116,930	117,949	101%	69,426	69,857	101%	36,108	33,346	92%	33,870	33,456	99%	0	0	-	51,490	43,642	85%	0	0	-
		①収入計	362,582	346,848	96%	0	0	-	54,758	48,598	89%	116,930	117,949	101%	69,426	69,857	101%	36,108	33,346	92%	33,870	33,456	99%	0	0	-	51,490	43,642	85%	0	0	-
	支出	材料費	162,172	153,074	94%	0	0	-	21,666	15,148	70%	68,226	63,922	94%	31,527	34,192	108%	9,568	8,628	90%	11,565	11,398	99%	0	0	-	19,620	19,786	101%	0	0	-
		労務費(社員等)	173,759	181,973	105%	0	0	-	29,128	34,152	117%	36,069	39,394	109%	27,534	28,235	103%	25,427	27,526	108%	24,898	22,388	90%	0	0	-	30,703	30,278	99%	0	0	-
		事業経費	88,623	81,606	92%	0	0	-	15,151	13,853	91%	23,330	21,019	90%	16,967	15,183	89%	11,650	10,237	88%	6,937	7,513	108%	0	0	-	14,588	13,801	95%	0	0	-
	②支出計	424,554	416,653	98%	0	0	-	65,945	63,153	96%	127,625	124,335	97%	76,028	77,610	102%	46,645	46,391	99%	43,400	41,299	95%	0	0	-	64,911	63,865	98%	0	0	-	
	③収支差額小計(①-②)	△ 61,972	△ 69,805	-	0	0	-	△ 11,187	△ 14,555	-	△ 10,695	△ 6,386	-	△ 6,602	△ 7,753	-	△ 10,537	△ 13,045	-	△ 9,530	△ 7,843	-	0	0	-	△ 13,421	△ 20,223	-	0	0	-	
福祉事業等収支	収入	障害福祉サービス等事業収入	666,779	630,426	95%	7,228	6,109	85%	198,705	183,253	92%	146,679	146,908	100%	75,475	69,133	92%	61,229	58,558	96%	55,149	53,446	97%	83,271	76,505	92%	39,043	36,514	94%	0	0	-
		④収入計	666,779	630,426	95%	7,228	6,109	85%	198,705	183,253	92%	146,679	146,908	100%	75,475	69,133	92%	61,229	58,558	96%	55,149	53,446	97%	83,271	76,505	92%	39,043	36,514	94%	0	0	-
	支出	人件費(職員等)	360,307	352,754	98%	48,818	45,652	94%	85,345	78,412	92%	78,981	82,398	104%	40,507	43,938	108%	27,277	23,982	88%	26,378	25,343	96%	31,474	31,956	102%	21,527	21,073	98%	0	0	-
		運営管理費	214,162	200,433	94%	27,808	26,953	97%	60,161	58,315	97%	43,639	40,050	92%	16,578	16,171	98%	18,809	16,546	88%	14,832	14,796	100%	25,176	20,648	82%	7,159	6,954	97%	0	0	-
		⑤支出計	574,469	553,187	96%	76,626	72,605	95%	145,506	136,727	94%	122,620	122,448	100%	57,085	60,109	105%	46,086	40,528	88%	41,210	40,139	97%	56,650	52,604	93%	28,686	28,027	98%	0	0	-
	⑥収支差額小計(④-⑤)	92,310	77,239	84%	△ 69,398	△ 66,496	96%	53,199	46,526	87%	24,059	24,460	102%	18,390	9,024	49%	15,143	18,030	119%	13,939	13,307	95%	26,621	23,901	90%	10,357	8,487	-	0	0	-	
	事業活動による収支(③+⑥)	30,338	7,434	25%	△ 69,398	△ 66,496	96%	42,012	31,971	76%	13,364	18,074	-	11,788	1,271	-	4,606	4,985	-	4,409	5,464	124%	20,259	23,901	99%	△ 3,064	△ 11,736	-	0	0	-	
その他活動収支	収入	雇用調整金収入	77,282	75,775	98%	0	0	-	10,460	9,122	87%	20,919	19,199	92%	12,312	12,755	104%	12,405	12,596	102%	9,400	10,395	111%	0	0	-	11,786	11,708	99%	0	0	-
		その他活動収入(売電等)	19,447	32,254	166%	6,707	7,364	110%	360	6,131	1703%	6,882	8,783	128%	2,265	3,093	137%	480	130	27%	1,960	1,120	57%	700	531	76%	93	2,609	2805%	2,000	2,493	125%
		⑦収入計	96,729	108,029	112%	6,707	7,364	-	10,820	15,253	141%	27,801	27,982	101%	14,577	15,848	109%	12,885	12,726	99%	11,360	11,515	101%	700	531	-	11,879	14,317	121%	2,000	2,493	125%
	支出	借入金元金償還金支出	66,012	65,992	100%	20,640	20,640	100%	7,897	7,896	100%	16,101	16,094	100%	9,684	9,684	100%	4,130	4,118	100%	5,880	5,880	100%	864	864	100%	816	816	100%	0	0	-
		固定資産取得支出	11,660	16,893	145%	2,500	6,902	276%	0	369	-	450	451	100%	1,334	1,117	84%	1,225	1,749	143%	5,011	4,806	96%	438	797	182%	702	702	100%	0	0	-
		支払利息	5,247	5,234	100%	179	174	97%	1,313	1,308	100%	1,228	1,226	100%	1,698	1,698	100%	256	254	99%	390	391	100%	94	94	100%	89	89	100%	0	0	-
		その他支出(退職掛金等)	6,539	10,741	164%	500	449	90%	970	2,071	214%	3,389	3,318	98%	360	899	250%	240	204	85%	520	685	132%	340	270	79%	220	287	130%	2,000	2,558	128%
	予備費	10,000	0	-	1,000	0	-	2,000	0	-	2,000	0	-	1,000	0	-	1,000	0	-	1,000	0	-	1,000	0	-	1,000	0	-	0	0	-	
	⑧支出計	99,458	98,860	99%	24,819	28,165	113%	12,160	11,644	96%	23,168	21,089	91%	14,076	13,398	95%	6,851	6,325	92%	12,801	11,762	92%	2,736	2,025	74%	2,827	1,894	67%	2,000	2,558	128%	
	⑨収入計(⑦+⑧)	1,126,090	1,085,303	96%	13,935	13,473	97%	264,283	247,104	93%	291,410	292,839	100%	159,478	154,938	97%	110,222	104,630	95%	100,379	98,417	98%	83,971	77,036	92%	102,412	94,473	92%	2,000	2,493	125%	
	⑩支出計(②+⑤+⑧)	1,098,481	1,068,700	97%	101,445	100,770	99%	223,631	211,524	95%	273,413	267,872	98%	147,189	151,117	103%	99,582	93,244	94%	97,411	93,200	96%	59,386	54,629	92%	96,424	93,786	97%	2,000	2,558	128%	
	⑪収支差額小計(⑨-⑩)	27,609	16,603	60%	-87,510	-87,297	100%	40,652	35,580	88%	17,997	24,967	-	12,289	3,721	30%	10,640	11,386	107%	2,968	5,217	176%	24,585	22,407	91%	5,988	687	-	0	△ 65	-	

本部 平成30年度 決算報告

作成日：令和元年5月

単位：千円

科目	合計				本部				相談支援事業				渚の交番			
	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算
専任支援事業等収支 収入 ①収入計 支出 ②支出計 ③収支差額小計(①-②)	事業収入	0	0	-	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0
	①収入計	0	0	-	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0
	材料費	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-
	労務費(社員等)	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-
	事業経費	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-
	②支出計	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-
③収支差額小計(①-②)	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	
福祉事業等収支 収入 ④収入計 支出 ⑤支出計 ⑥収支差額小計(④-⑤)	障害福祉サービス等事業収入	7,228	6,109	85%	5,319	7,228	6,109	85%	5,319	7,228	6,109	85%	5,319	0	0	-
	④収入計	7,228	6,109	-	5,319	7,228	6,109	-	5,319	7,228	6,109	-	5,319	0	0	-
	人件費(職員等)	48,818	45,652	94%	36,063	38,171	38,424	101%	31,266	10,647	7,228	68%	4,797	0	0	-
	運営管理費	27,808	26,953	97%	25,897	27,688	26,940	97%	25,897	120	13	11%	0	0	0	-
	⑤支出計	76,626	72,605	-	61,960	65,859	65,364	-	57,163	10,767	7,241	-	4,797	0	0	-
	⑥収支差額小計(④-⑤)	-69,398	-66,496	-	-56,641	-65,859	-65,364	-	-57,163	-3,539	-1,132	-	522	0	0	-
その他活動収支 収入 ⑦収入計 支出 ⑧支出計 ⑨収支差額小計(⑦-⑧) ⑩収支(③+⑥+⑨)	雇用調整金収入	0	0	-	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0
	その他活動収入	8,707	9,857	113%	6,787	6,707	7,364	110%	3,644	0	0	-	0	2,000	2,493	125%
	⑦収入計	8,707	9,857	-	6,787	6,707	7,364	-	3,644	0	0	-	0	2,000	2,493	-
	借入金元金償還金支出	20,640	20,640	100%	33,996	20,640	20,640	100%	33,996	0	0	-	0	0	0	-
	固定資産取得支出	2,500	6,902	276%	166	2,500	6,902	276%	166	0	0	-	0	0	0	-
	支払利息	179	174	97%	386	179	174	97%	386	0	0	-	0	0	0	-
	その他活動支出	2,500	3,007	120%	3,713	500	449	90%	315	0	0	-	0	2,000	2,558	128%
	予備費	1,000	0	0%	0	1,000	0	0%	0	0	0	-	0	0	0	-
	⑧支出計	26,819	30,723	-	38,261	24,819	28,165	-	34,863	0	0	-	0	2,000	2,558	-
	⑨収支差額小計(⑦-⑧)	-18,112	-20,866	-	-31,474	-18,112	-20,801	-	-31,219	0	0	-	0	0	-65	-
⑩収支(③+⑥+⑨)	-87,510	-87,362	-	-88,115	-83,971	-86,165	-	-88,382	-3,539	-1,132	-	522	0	-65	-	

サービス	説明事項			平成30年度決算について	次年度に向けて	
	科目	予算	決算			達成率
本部	固定資産取得支出	2,500	6,902	276%	現在使用している会計システムの更新のためパソコンの入れ替えが必要となり、500万円程費用がかかることになったため、会計システム自体の見直しを行い、新規の会計システムを導入することになった。5年分を一括で支払ったため、固定資産取得支出(長期前払費用)として計上した。	入替等も含め、中長期計画の立案を行い、計画的に執行する。
相談支援事業	障害福祉サービス等事業収入	7,228	6,109	85%	184件→217件(H31.3.31現在)の利用者の相談支援を行うこととなった。目標新規利用者50件に対して33件獲得となり、達成率は66%であった。現在の利用者の方で、高齢等により、次のサービスをさがし、つなげるというケースが多く、新規で受け入れることは難しい状況であった。	関係機関への定期的な訪問(3ヵ月に1回以上)を行い、社会資源の確保や関係性の強化を行い、新規での受け入れ増を目指す。
渚の交番	その他活動収入	2,000	2,493	125%	予算より収入増であったが、経費を除く部分は業務委託先のNPO法人福祉ネットこうえん会へ支払った。	引き続き、NPO法人福祉ネットこうえん会へ業務委託を行う。

福井事業所 平成30年度 決算報告

作成日：令和元年5月

単位：千円

科目		合計				就労継続支援A型				生活介護・日中一時				訓練・グループホーム・短期入所				
		現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算	
就労支援事業等収支	収入	事業収入	54,758	48,598	89%	64,333	54,758	48,598	89%	64,333	0	0	-	0	0	0	-	0
		①収入計	54,758	48,598	-	64,333	54,758	48,598	-	64,333	0	0	-	0	0	0	-	0
	支出	材料費	21,666	15,148	70%	28,876	21,666	15,148	70%	28,876	0	0	-	0	0	0	-	0
		労務費(社員等)	29,128	34,152	117%	31,673	29,128	34,152	117%	31,673	0	0	-	0	0	0	-	0
		事業経費	15,151	13,853	91%	13,379	15,151	13,853	91%	13,379	0	0	-	0	0	0	-	0
		②支出計	65,945	63,153	-	73,928	65,945	63,153	-	73,928	0	0	-	0	0	0	-	0
	③収支差額小計(①-②)	-11,187	-14,556	-	-9,595	-11,187	-14,556	-	-9,595	0	0	-	0	0	0	-	0	
福祉事業等収支	収入	障害福祉サービス等事業収入	198,705	183,253	92%	186,050	38,046	39,985	105%	33,198	84,440	77,225	91%	80,614	76,219	66,044	87%	72,238
		④収入計	198,705	183,253	-	186,050	38,046	39,985	-	33,198	84,440	77,225	-	80,614	76,219	66,044	-	72,238
	支出	人件費(職員等)	85,345	78,412	92%	75,248	21,739	18,796	86%	10,814	32,700	32,727	100%	35,498	30,906	26,889	87%	28,935
		運営管理費	60,161	58,315	97%	53,144	8,691	8,280	95%	8,630	22,866	22,348	98%	22,257	28,604	27,687	97%	22,257
		⑤支出計	145,506	136,727	-	128,391	30,430	27,076	-	19,444	55,566	55,076	-	57,755	59,510	54,575	-	51,192
		⑥収支差額小計(④-⑤)	53,199	46,526	-	57,659	7,616	12,908	-	13,754	28,874	22,149	-	22,859	16,709	11,469	-	21,046
その他活動収支	収入	雇用調整金収入	10,460	11,384	-	11,467	10,460	11,384	-	11,467	0	0	-	0	0	0	-	0
		その他活動収入	360	3,869	1075%	275	0	412	-	0	0	607	-	216	360	2,850	-	59
		⑦収入計	10,820	15,252	-	11,743	10,460	11,796	-	11,467	0	607	-	216	360	2,850	-	59
	支出	借入金元金償還金支出	7,897	7,896	100%	7,896	2,605	2,604	-	2,604	0	0	-	0	5,292	5,292	100%	5,292
		固定資産取得支出	0	369	-	690	0	171	-	36	0	0	-	0	0	198	-	654
		支払利息	1,313	1,308	100%	1,412	329	326	99%	354	0	0	-	0	984	982	100%	1,058
		その他活動支出	970	2,070	213%	943	200	245	123%	409	450	1,594	354%	318	320	231	72%	216
		⑧支出計	12,180	11,642	-	10,941	3,134	3,347	-	3,403	1,450	1,594	-	318	7,596	6,703	-	7,220
		⑨収支差額小計(⑦-⑧)	-1,360	3,610	-	801	7,326	8,449	-	8,064	-1,450	-988	-	-102	-7,236	-3,853	-	-7,161
		⑩収支(③+⑥+⑨)	40,652	35,580	-	48,866	3,755	6,803	-	12,223	27,424	21,162	-	22,757	9,473	7,616	-	13,885

サービス	説明事項				平成30年度決算について	次年度に向けて
	科目	予算	決算	達成率		
就労継続支援A型	事業収入	54,758	48,595	89%	予算対比：食品加工部門95%、営農83%、受託66% 受託事業において、予定作業がなくなり新規作業に取り組むことができず減収となった。	現場主導で予算を作成し目標値を設定し、現場も責任を持って取り組み、毎月の進捗状況を確認していくことで予算達成する。消費税の変更に伴い弁当や食堂のメニューの価格の見直しを行う。
	材料費	21,666	15,148	70%	食品加工部門では、価格にあった商品提供を目標(48%)に取り組み、結果40%となる。営農部門は、お米の品種を変えることで肥料等の削減ができた。	市場の商品が軒並み値上げされることが予測されており、弁当・食堂の材料費40%を維持できるように仕入業者の見直しなどを実施していき削減を行っていく。
	障害福祉サービス等事業収入	38,046	39,985	105%	B型等の本人にあったサービスへ移行する予定ができず、収入増となるが、労務費が増となった。	1年かけて、本人・保護者との面談を行っていき本人にあったサービスへの移行を進めていく。
生活介護	障害福祉サービス等事業収入	84,440	77,225	91%	入所施設、高齢者施設、B型などその方にあったサービスへ5名(入所2名、介護2名、他施設2名)が移行し、相談支援員などに情報提供をするが新たな利用者の確保ができなかったために減収となった。	平成30年度は、特別支援学校への情報提供を行ったことで新規利用者1名、実習生1名の受け入れにつながったこともあり、引き続き実施していく。
	人件費	32,700	32,727	100%	予定通り派遣から嘱託職員へ3名直接雇用ができたと、法定基準どりの人員配置で事業を進めることができた。	時間帯(入浴介助・排泄介助・食事介助)や曜日(利用者が多い日)で法定基準内で足りないときは、他部署の職員の応援体制を作り人員の加配をしないようにしていく。
GH	障害福祉サービス等事業収入	69,509	66,044	95%	利用者にあったサービスへの移行を進めてきた結果、宿泊型から1人暮らし1名自宅1名、GHから入所1名自宅2名となる。新規利用者は1名のみとなり減収となった。	昨年度と同様にその利用者にあったサービス移行を進めていく。また、安心安全な暮らしを提供するにあたり、耐震基準を満たしていない寮の閉寮を進めていく。
GH	人件費	30,906	26,889	87%	職員の配置を予定していたが、嘱託・アルバイトの配置となったことで人件費が減となった。	法定基準内の範囲で人員を配置していき、より充実した支援ができるよう生活支援員などの兼務業務を削減できるようにしていく。

若狭事業所 平成30年度 決算報告

作成日：令和元年5月

単位：千円

科目	合計				就労継続支援A型				生活介護・日中一時				グループホーム・短期入所					
	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算		
就労支援事業等収支	収入	事業収入	116,930	117,949	101%	138,126	116,930	117,949	101%	138,126	0	0	-	0	0	0	-	0
		①収入計	116,930	117,949	-	138,126	116,930	117,949	-	138,126	0	0	-	0	0	0	-	0
	支出	材料費	68,226	63,922	94%	79,930	68,226	63,922	94%	79,930	0	0	-	0	0	0	-	0
		労務費(社員等)	36,069	39,394	109%	43,868	36,069	39,394	109%	43,868	0	0	-	0	0	0	-	0
		事業経費	23,330	21,019	90%	25,036	23,330	21,019	90%	25,036	0	0	-	0	0	0	-	0
		②支出計	127,625	124,335	-	148,834	127,625	124,335	-	148,834	0	0	-	0	0	0	-	0
	③収支差額小計(①-②)	-10,695	-6,386	-	-10,708	-10,695	-6,386	-	-10,708	0	0	-	0	0	0	-	0	
福祉事業等収支	収入	障害福祉サービス等事業収入	146,679	146,908	100%	156,071	49,380	57,148	116%	60,326	46,562	31,499	68%	33,282	50,737	58,261	115%	62,463
		④収入計	146,679	146,908	-	156,071	49,380	57,148	-	60,326	46,562	31,499	-	33,282	50,737	58,261	-	62,463
	支出	人件費(職員等)	78,981	82,398	104%	93,421	31,937	40,135	126%	44,390	22,422	19,111	85%	22,788	24,622	23,152	94%	26,243
		運営管理費	43,639	40,050	92%	42,482	16,105	12,519	78%	12,051	11,797	9,921	84%	9,659	15,737	17,610	112%	20,772
		⑤支出計	122,620	122,448	-	135,903	48,042	52,654	-	56,441	34,219	29,032	-	32,447	40,359	40,762	-	47,015
		⑥収支差額小計(④-⑤)	24,059	24,460	-	20,168	1,338	4,494	-	3,885	12,343	2,467	-	835	10,378	17,499	-	15,448
その他活動収支	収入	雇用調整金収入	23,319	25,345	109%	20,918	23,319	25,345	109%	20,918	0	0	-	0	0	0	-	0
		その他活動収入	4,482	2,637	59%	10,288	4,482	2,064	46%	9,108	0	253	-	278	0	320	-	902
		⑦収入計	27,801	27,982	-	31,206	27,801	27,409	-	30,026	0	253	-	278	0	320	-	902
	支出	借入金元金償還金支出	16,101	16,094	100%	14,821	9,216	9,209	100%	7,936	4,979	4,979	100%	4,979	1,906	1,906	100%	1,906
		固定資産取得支出	450	451	100%	10,167	450	451	100%	10,167	0	0	-	0	0	0	-	0
		支払利息	1,228	1,226	100%	910	805	803	100%	910	343	343	100%	0	80	80	100%	0
		その他活動支出	3,390	3,318	98%	1,153	2,952	2,985	101%	474	192	166	87%	475	246	167	68%	204
		⑧支出計	23,169	21,089	-	27,051	14,423	13,448	-	19,487	5,514	5,488	-	5,454	3,232	2,152	-	2,110
		⑨収支差額小計(⑦-⑧)	4,632	6,893	-	4,155	13,378	13,961	-	10,539	-5,514	-5,235	-	-5,176	-3,232	-1,832	-	-1,208
		⑩収支(③+⑥+⑨)	17,996	24,967	-	13,615	4,021	12,070	-	3,716	6,829	-2,767	-	-4,341	7,146	15,667	-	14,240

サービス	説明事項			平成30年度決算について	次年度に向けて	
	科目	予算	決算			達成率
就労継続支援A型	事業経費	23,330	21,019	90%	関西電力との契約見直しにより年間電気代が109万円削減となった。	2019年度も電気代の特約見直し さらに10~15%の削減予定
	障害福祉サービス等事業収入	49,380	57,148	116%	予算作成当初に予定していた他サービスへの移行が出来なかったため。	利用者の適正に合わせB型への移行を含め再検討していく。
	人件費	31,937	40,135	126%	予算作成当初、他部門での配属を見込んでいた嘱託職員3名が雇用型配属になった。また、年度途中でアルバイトが嘱託職員になった。	主力職員・嘱託職員の高齢化が大きな問題。退職されるまでに次の世代へ移行(2年以内)コノミヤへの惣菜製造が拡大すれば、現状赤字で、売上を拡張するのが難しいと思われる部門から食品加工への人員の移行を含め検討していく。
	運営管理費	16,105	12,519	78%	配達を外部委託する予定から内部での配送に切替えたこと等により、業務委託費が330万円減となった。	電気代をピークタイムの分散で節約する。固定資産は修繕を行うのか買い替えた方が得なのかを再検討していく。
生活介護	障害福祉サービス等事業収入	46,562	31,499	68%	予算作成当初、利用予定されていた教養の利用者3名の利用が無くなったため。	特別支援学校の訪問を月1回に増やす。現在2名の利用希望者があり、定期的な利用に繋げる。
	人件費	22,422	19,111	85%	職員1名が他事業所へ異動したため。	スクール時等他部門と連携して適正配置を継続する。
	運営管理費	11,797	9,921	84%	上記の理由により、食費等の経費が抑えられたため。	送迎ルートの再編を行い、経費削減を行う。
GH	障害福祉サービス等事業収入	50,737	58,261	115%	おおとば寮を1名定員増にしたため。	高齢利用者の移行先を探しつつ、充足率100%を維持する。
	運営管理費	15,737	17,610	112%	おおとば寮を1名定員増にしたため、支援費増に伴い経費も増加した。	台風等災害に備え修繕費を抑える。

丸岡南中事業所 平成30年度 決算報告

作成日：令和元年5月

単位：千円

科目	合計				就労継続支援A型				生活介護				グループホーム					
	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算		
就労支援事業等収支	収入	事業収入	69,426	69,857	101%	82,832	69,426	69,857	101%	82,832	0	0	-	0	0	0	-	0
		①収入計	69,426	69,857	-	82,832	69,426	69,857	-	82,832	0	0	-	0	0	0	-	0
	支出	材料費	31,527	34,192	108%	40,402	31,527	34,192	108%	40,402	0	0	-	0	0	0	-	0
		労務費(社員等)	27,534	28,235	103%	25,841	27,534	28,235	103%	25,841	0	0	-	0	0	0	-	0
		事業経費	16,967	15,183	89%	17,018	16,967	15,183	89%	17,018	0	0	-	0	0	0	-	0
	②支出計	76,028	77,610	-	83,261	76,028	77,610	-	83,261	0	0	-	0	0	0	-	0	
	③収支差額小計(①-②)	-6,602	-7,753	-	-429	-6,602	-7,753	-	-429	0	0	-	0	0	0	-	0	
福祉事業等収支	収入	障害福祉サービス等事業収入	75,475	69,133	92%	67,734	47,834	42,775	89%	42,203	10,124	8,835	87%	8,839	17,517	17,523	100%	16,692
		④収入計	75,475	69,133	-	67,734	47,834	42,775	-	42,203	10,124	8,835	-	8,839	17,517	17,523	-	16,692
	支出	人件費(職員等)	40,507	43,938	108%	38,808	30,516	30,621	100%	25,816	6,911	9,031	131%	10,933	3,080	4,286	139%	2,059
		運営管理費	16,578	16,171	98%	16,107	8,525	7,604	89%	8,323	2,209	1,810	82%	1,734	5,844	6,757	116%	6,050
		⑤支出計	57,085	60,109	-	54,915	39,041	38,225	-	34,139	9,120	10,841	-	12,667	8,924	11,043	-	8,109
	⑥収支差額小計(④-⑤)	18,390	9,024	-	12,819	8,793	4,550	-	8,064	1,004	-2,006	-	-3,828	8,593	6,480	-	8,583	
その他活動収支	収入	雇用調整金収入	14,077	14,993	107%	13,027	14,077	14,993	107%	13,027	0	0	-	0	0	0	-	0
		その他活動収入	500	855	171%	2,223	0	182	-	1,638	0	128	-	0	500	545	109%	585
		⑦収入計	14,577	15,848	-	15,250	14,077	15,175	-	14,665	0	128	-	0	500	545	-	585
	支出	借入金元金償還金支出	9,684	9,684	100%	9,684	4,680	4,680	100%	4,680	0	0	-	0	5,004	5,004	100%	5,004
		固定資産取得支出	1,334	1,117	84%	0	1,334	1,117	84%	0	0	0	-	0	0	0	-	0
		支払利息	1,698	1,698	100%	1,859	835	835	100%	933	0	0	-	0	863	863	100%	926
		その他活動支出	360	899	250%	761	270	763	283%	630	60	72	-	131	30	64	214%	0
		予備費	1,000	0	0%	0	1,000	0	0%	0	0	0	-	0	0	0	-	0
		⑧支出計	14,076	13,398	-	12,304	8,119	7,395	-	6,243	60	72	-	131	5,897	5,931	-	5,930
		⑨収支差額小計(⑦-⑧)	501	2,450	-	2,946	5,958	7,780	-	8,422	-60	56	-	-131	-5,397	-5,386	-	-5,345
	⑩収支(③+⑥+⑨)	12,289	3,721	-	15,336	8,149	4,577	-	16,057	944	-1,950	-	-3,959	3,196	1,094	-	3,238	

サービス	説明事項			平成30年度決算について	次年度に向けて	
	科目	予算	決算			達成率
就労継続支援A型	事業収入	69,426	69,857	101%	南中78,056食、鳴鹿23,944食、青年の家15,046食、予算通りの結果となった。	収入の確保は年始めに決定づくので、予算通り行う。
	材料費	31,527	34,192	103%	売上に係る材料費の割合を目標値45%としたが、49%となった。	30年度中に肉の価格交渉、野菜等仕入業者を増やし、価格における選択肢を増やした。今年度の目標値を44%とし、進捗を確認し予算執行を進める。
	障害福祉サービス等事業収入	47,834	42,775	89%	利用者の年齢や本人希望によるB型への移行が2名あったため減となった。	定員と、業務のバランスを考慮し、A型利用者の採用を行う。
生活介護	障害福祉サービス等事業収入	10,124	8,835	87%	2月より、あわらへの移行を本格的に行い、丸岡とあわらで、併用で利用していた利用者2名はあわらへ一本化したため、対予算で87%となった。	
	人件費	6,911	9,031	131%	あわらへの移行準備として、あわらより補助職員が週5日で補助に来ていただき、その分が対予算で増となった。	
GH	障害福祉サービス等事業収入	17,517	17,523	100%	予算通りの利用人数となった。	定員の充足に向けて、遠距離通勤利用者、転勤等の利用者に勤めていく。
	人件費	3,080	4,286	139%	サビ管の人件費をGHで見ることとし、予算時からの按分に変更があったため、予算を超過した。	適正な配置で予算を計上し、予算に則した運営を行う。

おくえつ事業所 平成30年度 決算報告

作成日：令和元年5月

単位：千円

科目	合計				就労継続支援A型				生活介護				グループホーム					
	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算		
就労支援事業等収支	収入	事業収入	36,108	33,346	92%	34,322	36,108	33,346	92%	34,322	0	0	-	0	0	0	-	0
		①収入計	36,108	33,346	-	34,322	36,108	33,346	-	34,322	0	0	-	0	0	0	-	0
	支出	材料費	9,568	8,628	90%	9,904	9,568	8,628	90%	9,904	0	0	-	0	0	0	-	0
		労務費(社員等)	25,427	27,526	108%	22,024	25,427	27,526	108%	22,024	0	0	-	0	0	0	-	0
		事業経費	11,650	10,237	88%	9,932	11,650	10,237	88%	9,932	0	0	-	0	0	0	-	0
	②支出計	46,645	46,391	-	41,860	46,645	46,391	-	41,860	0	0	-	0	0	0	-	0	
	③収支差額小計(①-②)	-10,537	-13,045	-	-7,538	-10,537	-13,045	-	-7,538	0	0	-	0	0	0	-	0	
福祉事業等収支	収入	障害福祉サービス等事業収入	61,229	58,558	96%	60,733	38,868	37,449	96%	37,116	12,326	10,831	88%	13,380	10,035	10,277	102%	10,237
		④収入計	61,229	58,558	-	60,733	38,868	37,449	-	37,116	12,326	10,831	-	13,380	10,035	10,277	-	10,237
	支出	人件費(職員等)	27,277	23,982	88%	24,881	15,906	15,204	96%	16,517	6,163	4,583	74%	4,159	5,208	4,196	81%	4,205
		運営管理費	18,809	16,546	88%	17,618	11,717	11,291	96%	11,423	4,223	2,880	68%	3,041	2,869	2,374	83%	3,154
		⑤支出計	46,086	40,528	-	42,499	27,623	26,495	-	27,940	10,386	7,463	-	7,200	8,077	6,570	-	7,359
	⑥収支差額小計(④-⑤)	15,143	18,030	-	18,234	11,245	10,954	-	9,176	1,940	3,368	-	6,181	1,958	3,707	-	2,878	
その他活動収支	収入	雇用調整金収入	12,405	12,615	102%	12,421	12,405	12,615	102%	12,421	0	0	-	0	0	0	-	0
		その他活動収入	480	111	23%	289	0	13	-	289	480	93	19%	0	0	5	-	0
		⑦収入計	12,885	12,726	-	12,710	12,405	12,628	-	12,710	480	93	-	0	0	5	-	0
	支出	借入金元金償還金支出	4,130	4,118	100%	4,118	3,095	3,083	100%	3,083	1,035	1,035	100%	1,035	0	0	-	0
		固定資産取得支出	1,225	1,749	143%	215	1,225	1,374	112%	0	0	375	-	0	0	0	-	215
		支払利息	256	254	99%	318	190	188	99%	236	66	66	100%	83	0	0	-	0
		その他活動支出	240	204	85%	840	128	130	102%	789	60	40	66%	29	52	34	65%	23
		⑧支出計	6,851	6,325	-	5,491	4,638	4,776	-	4,107	2,161	1,516	-	1,146	52	34	-	238
		⑨収支差額小計(⑦-⑧)	6,034	6,401	-	7,218	7,767	7,852	-	8,602	-1,681	-1,423	-	-1,146	-52	-29	-	-238
	⑩収支(③+⑥+⑨)	10,640	11,386	-	17,916	8,475	5,761	-	10,240	259	1,946	-	5,035	1,906	3,678	-	2,640	

サービス	説明事項			平成30年度決算について	次年度に向けて	
	科目	予算	決算			達成率
就労継続支援A型	事業収入	36,108	33,346	92%	とうふ事業は予算対比△20%となった。11月から丸岡南中事業所、1月から勝山市内小学校2校の新規取引があったがルートセールス販売で29年度比△17%の減収をカバー出来なかった。自動車部品の請負事業は新規組付け部品3種獲得して125%となった。	食品加工(とうふ・もち)において衛生管理の知識を習得した支援員の育成のため調理師免許取得、1名以上を目指す。勝山独特の油あげだけでなく勝山以外でも需要のある厚揚げの開発・商品化・スーパーでの販売などを行いルートセールス販売前年度比10%アップする。請負事業の自動車部品組付けは31年度よりA型・B型に分かれる事からそれぞれ新規部品1種獲得し、収益増とともに利用者の能力アップにつなげる。
	材料費	9,568	8,628	90%	事業収入が予算を下回ったため材料費も予算を下回る。とうふ・あげ商品は原材料率34%と予算通りとなった。もち商品はスーパーに応じて納品量の調整や事業所内での見切り販売を行ったが、赤飯用小豆の値上げなどもあり原材料率56%となってしまった。	とうふ・あげ商品は原材料率35%維持する。もち商品に関しては廃棄商品が多いわけではないのでおこわ商品の値上げの検討をする。併せてスーパー販売の正月餅商品の値上げも検討する。
	障害福祉サービス等事業収入	38,868	37,449	96%	7月より社員1名の入社、2月末で社員1名一般就労のため退職となった。	能力に合わせたサービスの提供を行うため4月よりB型事業を開始しA型の定員を20名とした。利用者の移行があり定員20名中現員13名となった。20代の利用者がいないので事業収入とのバランスを考えて新規利用者を受け入れる。
生活介護	障害福祉サービス等事業収入	12,326	10,831	88%	利用者1名が急病ため4月より長期入院となり予算を下回った。時期により心身の不調を訴えて休まれる方がいた。	専従職員を配置出来たことから個別のデイリープログラムを確立して落ち着いて過ごせる環境を整える。4月より1名、定年のためA型から1名利用開始。定員10名中現員7名のため奥越特別支援学校・相談支援専門員と連携をして実習生受け入れ2名・新規利用者1名を年間目標とする。
	人件費	6,163	4,583	74%	求人は行っていたが職員の補充が3月になったため予算を下回った。	現在の体制を維持して所内外の活動を充実させる。
GH	障害福祉サービス等事業収入	10,035	10,227	102%	2月に1名退寮、3月に1名退寮となった。	現在、定員6名中現員4名。寮体験希望者を洗い出して体験利用を通して利用に繋げる。3月より専従世話人も配置出来ている。
	人件費	5,208	4,196	81%	専従世話人の定着と補充が計画通り行かず予算を下回った。	現在の体制を維持して地域での活動や余暇支援を充実させる。

あわら事業所 平成30年度 決算報告

作成日：令和元年5月

単位：千円

科目	合計				就労継続支援A型				生活介護				グループホーム					
	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算		
就労支援事業等収支	収入	事業収入	33,870	33,456	99%	33,689	33,870	33,456	99%	33,689	0	0	-	0	0	0	-	0
		①収入計	33,870	33,456	-	33,689	33,870	33,456	-	33,689	0	0	-	0	0	0	-	0
	支出	材料費	11,565	11,398	99%	11,493	11,565	11,398	99%	11,493	0	0	-	0	0	0	-	0
		労務費(社員等)	24,898	22,388	90%	22,995	24,898	22,388	90%	22,995	0	0	-	0	0	0	-	0
		事業経費	6,937	7,513	108%	6,892	6,937	7,513	108%	6,892	0	0	-	0	0	0	-	0
		②支出計	43,400	41,299	-	41,380	43,400	41,299	-	41,380	0	0	-	0	0	0	-	0
	③収支差額小計(①-②)	-9,530	-7,843	-	-7,690	-9,530	-7,843	-	-7,690	0	0	-	0	0	0	-	0	
福祉事業等収支	収入	障害福祉サービス等事業収入	55,149	53,446	97%	54,891	38,000	36,514	96%	38,247	8,629	8,176	95%	8,749	8,520	8,756	103%	7,895
		④収入計	55,149	53,446	-	54,891	38,000	36,514	-	38,247	8,629	8,176	-	8,749	8,520	8,756	-	7,895
	支出	人件費(職員等)	26,378	25,342	96%	24,759	17,907	17,317	97%	15,209	4,399	4,093	93%	7,369	4,072	3,932	97%	2,181
		運営管理費	14,832	14,796	100%	15,148	8,279	8,320	100%	8,701	2,447	2,262	92%	2,413	4,106	4,214	103%	4,034
		⑤支出計	41,210	40,138	-	39,907	26,186	25,637	-	23,911	6,846	6,355	-	9,781	8,178	8,146	-	6,215
		⑥収支差額小計(④-⑤)	13,939	13,308	-	14,984	11,814	10,877	-	14,336	1,783	1,821	-	-1,032	342	611	-	1,681
○その他活動収支	収入	雇用調整金収入	11,360	11,331	100%	11,856	11,360	11,331	100%	11,856	0	0	-	0	0	0	-	0
		その他活動収入	0	184	-	371	0	184	-	276	0	0	-	95	0	0	-	0
		⑦収入計	11,360	11,516	-	12,227	11,360	11,516	-	12,132	0	0	-	95	0	0	-	0
	支出	借入金元金償還金支出	5,880	5,880	100%	5,880	5,880	5,880	100%	5,880	0	0	-	0	0	0	-	0
		固定資産取得支出	5,011	4,806	96%	0	1,663	1,458	88%	0	3,348	3,348	100%	0	0	0	-	0
		支払利息	390	391	100%	504	390	391	100%	504	0	0	-	0	0	0	-	0
		その他活動支出	520	685	132%	628	406	616	152%	550	84	47	56%	54	30	22	74%	23
		予備費	1,000	0	-	0		0			1,000	0	-	0	0	0	-	0
		⑧支出計	12,801	11,762	-	7,012	8,339	8,345	-	6,934	4,432	3,395	-	54	30	22	-	23
		⑨収支差額小計(⑦-⑧)	-1,441	-247	-	5,216	3,021	3,171	-	5,198	-4,432	-3,395	-	41	-30	-22	-	-23
	⑩収支(③+⑥+⑨)	2,968	5,217	-	12,511	5,305	6,206	-	11,843	-2,649	-1,573	-	-991	312	588	-	1,658	

サービス	説明事項			達成率	平成30年度決算について	次年度に向けて
	科目	予算	決算			
就労継続支援A型	事業収入	33,870	33,456	99%	リサイクル：予算10,770千円に対し、実績10,034千円(△736千円)。前年対比で缶の搬入量が6%減。自社回収の増加を図ったがカバーできず。ペットボトルは搬入日を夏季は増やしたため予算比100千円増。 軍手・ウエス：予算16,500千円に対し、実績16,597千円(97千円)。行政等からのスポット商品の新規受注が数件あり、予算には到達できた。しかし新規の定期購入先の確保までには至らなかった。 施設外就労：予算6,600千円に対し、実績6,824千円(224千円)。作業ミス等もあり、受託作業種の増加には繋がらなかったが、単価交渉により1種の作業において単価UP(年間100千円)となる。	リサイクル：事業収入においては、毎年減少傾向にあり、増加の目的は経たない状況であるため、現状の維持を目標に取り組みながら、人員数の減少などを図り、収益改善を行う。 軍手・ウエス：新たな取引先の確保に取り組みながら、現在の価格設定の見直しを行い、値上げの検討を実施。また、材料の企画変更等による製造原価減を行う。 施設外就労：作業ミスの減少により信頼を得て、新たな作業種確保を目指す。また、月1回以上、定期的に受託先へ訪問し、課題があれば早期解決を行う。
	労務費	24,898	22,388	90%	定員14名に対し、現員19名で予算計上していたが、8月末で社員1名退職となったため、予算比減。	就労継続支援B型事業の開始にともない、定員6名の充足を目標に順次利用者の移行を図る。
	障害福祉サービス等事業収入	38,000	36,514	96%	定員14名に対し、現員19名で予算計上していたが、8月末で社員1名退職となったため、予算比減。	就労継続支援B型事業の開始にともない、定員6名の充足を目標に順次利用者の移行を図る。
生活介護	障害福祉サービス等事業収入	8,629	8,176	95%	定員6名に対し現員4名で予算計上。2月末に1名(身体障がい有)別施設へ移行となり1名減となった。また、1名増員の目標を持ち特別支援学校等に訪問。年度中の増とはならなかったが、翌年度1名利用に繋がった。	新たな利用者が1名(週2利用)増えたので、継続して利用となるよう支援の実施。また、新たな活動スペースが出来たことを市内、学校等の関係機関にアピールを行い、新規利用者の確保を目指す。
	人件費	4,399	4,093	93%	5月末で、にしやま寮を廃止としたため、にしやま寮に配置していた嘱託職員1名を生活介護およびたつかわ寮に配置。	配置基準上の配置を行い、適正な運営を行う。
たつかわ寮	障害福祉サービス等事業収入	8,520	8,756	103%	定員5名に対し現員5名で予算計上。1月中旬に1名(身体障がい有)別施設へ移行となったが、その後、法人内GMから1名移行となったため、予算通りの進捗となった。	現員の利用継続を目標に取り組みが、年齢等を考え、今後の移行先等の検討を行うとともに、新たな入居者のニーズ把握等を行う。
	人件費	4,072	3,932	128%	5月末で、にしやま寮を廃止としたため、にしやま寮に配置していた嘱託職員1名を生活介護およびたつかわ寮に配置。	配置基準上の配置を行い、適正な運営を行う。

小浜事業所 平成30年度 決算報告

作成日：令和元年5月

単位：千円

科目	合計				就労継続支援A型				生活介護				グループホーム				
	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算	
就労支援事業等収支	収入	0	0	-	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	
	①収入計	0	0	-	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	
	支出	0	0	-	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	
	②支出計	0	0	-	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	
	③収支差額小計(①-②)	0	0	-	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	
福祉事業等収支	収入	83,271	76,505	92%	76,005	0	0	-	0	66,701	57,815	87%	57,949	16,570	18,689	113%	18,056
	④収入計	83,271	76,505	-	76,005	0	0	-	0	66,701	57,815	-	57,949	16,570	18,689	-	18,056
	支出	31,474	31,956	102%	28,972	0	0	-	0	24,020	23,787	99%	21,584	7,454	8,170	110%	7,387
	⑤支出計	25,176	20,648	82%	21,530	0	0	-	0	21,547	16,165	75%	18,138	3,629	4,482	124%	3,392
	⑥収支差額小計(④-⑤)	56,650	52,604	-	50,502	0	0	-	0	45,567	39,952	-	39,722	11,083	12,652	-	10,779
その他活動収支	収入	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0
	雇用調整金収入	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0
	その他活動収入	700	531	76%	2,995	0	0	-	0	700	523	75%	2,995	0	9	-	0
	⑦収入計	700	531	-	2,995	0	0	-	0	700	523	-	2,995	0	9	-	0
	支出	864	864	100%	864	0	0	-	0	0	0	-	0	864	864	100%	864
	借入金元金償還金支出	864	864	100%	864	0	0	-	0	0	0	-	0	864	864	100%	864
	固定資産取得支出	438	797	182%	21,738	0	0	-	0	438	797	182%	21,138	0	0	-	600
	支払利息	94	94	100%	105	0	0	-	0	0	0	-	0	94	94	100%	105
	その他活動支出	340	270	79%	46	0	0	-	0	280	228	81%	10	60	42	70%	36
	⑧支出計	1,000	0	0%	0	0	0	-	0	1,000	0	-	0	0	0	-	0
⑨収支差額小計(⑦-⑧)	2,736	2,025	-	22,753	0	0	-	0	1,718	1,025	-	21,148	1,018	1,000	-	1,605	
⑩収支(③+⑥+⑨)	-2,036	-1,494	-	-19,759	0	0	-	0	-1,018	-502	-	-18,153	-1,018	-992	-	-1,605	
⑩収支(③+⑥+⑨)	24,585	22,407	-	5,745	0	0	-	0	20,116	17,362	-	73	4,469	5,046	-	5,672	

サービス	説明事項			達成率	平成30年度決算について	次年度に向けて
	科目	予算	決算			
生活介護	障害福祉サービス等事業収入	66,701	57,815	87%	目標新規利用者3名に対して、年度初めに新規2名増となったが、内1名は施設利用になかなか馴染めずしばらく週1回利用で続けてきたが、9月からまったく来ることが出来なくなった。相談支援員等への働きかけと調整を行ってきた結果、8月に新規1名増(毎日利用)及び2月に新規1名増(週1回)となったが、他にも長期欠席者(精神的)が2名おり、目標には大きく届くことが出来なかった。	新卒者での新規利用はなかったが、浴場整備により入浴サービスの問い合わせは何度かあるため、音楽活動、笑ヨガ等で講師を招いた活動を充実させたり、施設商品の充実や、リハビリ活動、入浴サービスなど、個々の利用者ニーズに出来る限り応え、関係機関にアピールすることで引き続き利用者増に努める。
	運営管理費	21,985	16,165	74%	業社と何度も施工方法の相談や値段交渉を進めるなかで、小浜エアコン入替予算800千円⇒実績437千円、玄関シート張替予算500千円⇒実績61千円、屋根雨どい化粧板修繕1,500千円⇒実績223千円(取外しのみ)と修繕費を始め経費を大幅に削減することが出来た。	大きな経費として名田庄作業所のエアコン入替を予定しており、これについても相見積と交渉を重ねて経費の削減に努める。また、日常の中では電気代の推移を事務所に掲示することで、経費削減の意識づけを行う。
GH	障害福祉サービス等事業収入	16,570	18,689	113%	現在定員7名満床中。土日営業を月1～2回の頻度で希望制で導入し、目標延べ人数2,080人⇒実績2,130人と若干ではあるが目標を超えることができた。	土日営業の希望制は引き続き継続して実施する。地域行事への積極的な参加や地域ボランティア等地域と積極的に関わり寮生の余暇の充実を図る。
	人件費	7,454	8,170	110%	土日営業による体制を整えるため、その分の世話人件費が増加した。	寮生は重度利用者が多く、宿直体制もとっているため十分な体制を整えることが出来るよう小浜事業所支援員とも連携し体制に不備がないようにしていく。
	運営管理費	3,629	4,482	124%	保険料を例年どおり予算6千円で計上したが、28年度に起きた転倒事故による賠償保障を29年度に実施しており、その分保険料が30年度に511千円と大幅に増額した。	水光熱費など、節約に努め寮生の負担増とならないように努める。

丹南事業所 平成30年度 決算報告

作成日：令和元年5月

単位：千円

科目	合計				就労継続支援A型				生活介護				グループホーム					
	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算	現計予算	決算	達成率	前年度決算		
就労支援事業等収支	収入	事業収入	51,490	43,642	85%	51,332	51,490	43,642	85%	51,332	0	0	-	0	0	0	-	0
		①収入計	51,490	43,642	-	51,332	51,490	43,642	-	51,332	0	0	-	0	0	0	-	0
	支出	材料費	19,620	19,786	101%	23,295	19,620	19,786	101%	23,295	0	0	-	0	0	0	-	0
		労務費(社員等)	30,703	30,278	99%	26,867	30,703	30,278	99%	26,867	0	0	-	0	0	0	-	0
		事業経費	14,588	13,801	95%	16,022	14,588	13,801	95%	16,022	0	0	-	0	0	0	-	0
		②支出計	64,911	63,865	-	66,184	64,911	63,865	-	66,184	0	0	-	0	0	0	-	0
	③収支差額小計(①-②)	-13,421	-20,223	-	-14,851	-13,421	-20,223	-	-14,851	0	0	-	0	0	0	-	0	
福祉事業等収支	収入	障害福祉サービス等事業収入	39,043	36,514	94%	37,548	39,043	36,514	94%	37,548	0	0	-	0	0	-	0	
		④収入計	39,043	36,514	-	37,548	39,043	36,514	-	37,548	0	0	-	0	0	-	0	
	支出	人件費(職員等)	21,527	21,073	98%	24,879	21,527	21,073	98%	24,879	0	0	-	0	0	0	-	0
		運営管理費	7,159	6,954	97%	7,436	7,159	6,954	97%	7,436	0	0	-	0	0	0	-	0
		⑤支出計	28,686	28,027	-	32,315	28,686	28,027	-	32,315	0	0	-	0	0	0	-	0
	⑥収支差額小計(④-⑤)	10,357	8,487	-	5,233	10,357	8,487	-	5,233	0	0	-	0	0	0	-	0	
その他活動収支	収入	雇用調整金収入	11,879	13,740	116%	12,154	11,879	13,740	116%	12,154	0	0	-	0	0	-	0	
		その他活動収入	0	577	-	125	0	577	-	125	0	0	-	0	0	-	0	
		⑦収入計	11,879	14,317	-	12,279	11,879	14,317	-	12,279	0	0	-	0	0	-	0	
	支出	借入金元金償還金支出	816	816	100%	816	816	816	100%	816	0	0	-	0	0	0	-	0
		固定資産取得支出	702	702	-	0	702	702	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0
		支払利息	89	89	100%	99	89	89	100%	99	0	0	-	0	0	0	-	0
		その他活動支出	220	287	131%	773	220	287	131%	773	0	0	-	0	0	0	-	0
		予備費	1,000	0	0%	0	1,000	0	0%	0	0	0	-	0	0	0	-	0
		⑧支出計	2,827	1,894	-	1,688	2,827	1,894	-	1,688	0	0	-	0	0	-	0	
		⑨収支差額小計(⑦-⑧)	9,052	12,423	-	10,591	9,052	12,423	-	10,591	0	0	-	0	0	-	0	
	⑩収支(③+⑥+⑨)	5,988	687	-	974	5,988	687	-	974	0	0	-	0	0	-	0		

サービス	説明事項				平成30年度決算について	次年度に向けて
	科目	予算	決算	達成率		
就労継続支援A型	事業収入	51,490	43,642	85%	薬市店売上1日平均20千減により、大幅な減収となる。売り上げ増を目指し毎月新商品の販売、毎週日曜日にイベントの開催(メロンパンフェア・クロワッサン・コネフェア)等を行ってきたが、年度予算を下回る結果となる。	引き続き経営アドバイザーを通して売上げ増を目指す。ヤササキ様と協議を行い今後の展開へ相談を行う。
	事務経費	15,290	13,801	90%	年度途中薬市店の家賃を交渉したことによる減少。またタクシーの利用を最小限にした事による業務委託費の経費削減が改善の大きな要因である。	引き続き材料費削減に向けて、月ごとの予算を厳守し発注・生産を行う。
	障害福祉サービス事業収入	39,043	36,514	94%	利用者が当初予算より、1名減員したことにより減少した。(1,600千/年)また年度途中1名一般就労したことにより、今年度収入は減少したが、来年度就労移行支援体制加算の算定要件を満たすため、加算を取得する。	現在、予算通りの定数16名で執行している。就労継続支援B型の現員が予算より2名少ないため、利用者確保に向けて特別支援学校等に挨拶まわりや自立支援協議会の事業所説明会に積極的に参加する。

11/11/11

0

0

11/11/11